

平成 18 年度

佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書

平成 19 年 7 月

大学教育委員会

FD 専門委員会

はじめに

佐賀大学「学生による授業評価」の実施は平成 18 年度で 7 年目を迎えます。当初、模索状態で始められた「学生による授業評価」でしたが、平成 18 年度後学期の実施率は軒並み 80%を超えるまでになりました。さらに、大学院での実施も始められております。これも日頃から弛まぬ努力を重ねてきておられる本学の諸先生方のおかげであると考えています。

現在では全国的に見ても「学生による授業評価」を実施していない大学は全体の 5%以下でしかありません。言い換えれば、ほとんど全ての大学で「学生による授業評価」が実施されていると言えます。しかし、どの大学であっても授業評価は実施しているものの、その結果をどのように活用するかに関しては二の足を踏んでいるようです。今後、大学の評価が順次導入されることは周知の事実ですが、得られた授業評価結果をどのような形で授業改善に結びつけるかが評価の対象となることは間違いないでしょう。その為にも本学では「学生による授業評価」の実施に加えて、授業改善にも力を注がねばならない時期に差しかかっていると言えます。

本報告書は従来の「学生による授業評価」実施に関する報告書ではありません。授業評価結果を元に授業改善実施を視野に入れた報告書となっています。各学部等には組織別授業評価の実施が義務付けられていますので、評価の高かった科目の選考や授業改善への取り組み状況、次年度へ向けた授業改善の目標などをそれぞれの教育組織は報告しなくてはなりません。その過程を通して、各教育組織は様々な疑問点・問題点について議論された事と思います。それこそが、学生による授業評価結果を授業改善へと結びつける第一歩であると考えています。

本学の先生方には「学生による授業評価」の実施や各授業科目毎の「授業点検・評価報告書」の提出など日頃から大学教育にご協力いただいています。今後も、佐賀大学の教育改革をご理解の上、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人 佐賀大学 大学教育委員会委員長
田代洋丞

国立大学法人 佐賀大学 大学教育委員会 FD 専門委員会委員長
川野良信

目 次

はじめに	1
I. 経過	3
II. 実施状況	4
III. 授業評価アンケートの結果と分析	
III-(1) 学部等別の結果と解析	11
III-(2) 研究科別の結果と解析	23
III-(3) 授業内容及び授業方法, 教員の対応と満足度の関係	30
III-(4) 学生から高い評価を得ている授業科目の選定基準	34
IV. 授業改善の取り組み状況に係る優れた点及び改善を要する点	37
V. 次年度の授業改善目標	41
おわりに	44
資料1 項目の基礎集計表	45
資料2 授業評価結果を用いた授業改善実施要領	57
資料3 佐賀大学学生による授業評価実施要領	58
資料4 学生による授業評価アンケート様式	60
資料5 共通様式以外のアンケート様式	64
資料6 教員, 授業科目別アンケート集計様式 (レーダーチャート)	69

I. 経 過

佐賀大学では平成 12 年度前学期の「学生による授業評価」の試行的実施を経て、同年度の大学教育委員会で承認された「授業評価実施要領」に基づき平成 13 年度より本格導入に至っている。さらに佐賀医科大学との統合後には、佐賀大学大学教育委員会(平成 15 年 11 月 26 日開催)で「学生に対する授業評価システムに対応する専門委員会」の設置が承認され、継続的に実施する体制が整えられた。法人化後の平成 17 年度には「授業評価実施要領」を一部改訂し、従来の教員による選択的实施を改め、講義科目(演習、実験、少人数ゼミを除く)を対象に共通アンケートによる 100%の実施を目標に活動を続けてきた。しかしながら、実施率は低迷を続け抜本的な改革が必要と考えられ、翌平成 18 年度後学期より全ての授業科目(大学院も含む)を対象に授業評価を実施することが定められた「佐賀大学学生による授業評価実施要領」(平成 18 年 10 月 1 日施行)が新たに制定された。この「佐賀大学学生による授業評価実施要領」(以下、授業評価実施要領とする)は実施基準を各学部等が設定できる点が特筆される。すなわち、少人数クラスや複数担任の科目では共通アンケート様式にはそぐわないため、独自に用意したアンケートを用いることを可能としている。そのため佐賀大学の全ての授業科目において基本的に共通アンケートもしくは独自アンケートによって学生の意見を聴く機会が設けられていると言えよう。また、アンケート結果の教員へのフィードバックについても全学平均や学部平均との比較をレーダーチャートに示し、自らの授業改善に活かせるような工夫が施された。さらに、この授業評価アンケート結果に基づき、自らの授業の改善点について、各教員は授業点検・評価報告書の提出が義務づけられた(授業評価結果を用いた授業改善実施要領 平成 18 年 12 月 22 日施行)。一方、この授業評価アンケートと並行に学生対象アンケートも実施され、佐賀大学の教育目的、施設、教育システム全般にわたって広く学生の声を取り入れようとする試みも行われた。さらには教員対象アンケートや卒業生対象アンケートも実施され、佐賀大学における教育活動を多面的に分析する準備を整備しつつある。

本報告では平成18年度前学期に実施した旧授業評価アンケートの結果および後学期に実施した新授業評価アンケートの結果、そして授業評価結果を用いた授業改善実施要領(以下、授業改善実施要領とする)に基づいた佐賀大学の授業改善への取り組みについて述べる。なお、医学部については、授業形態の差異に配慮し独自の様式を用いた。

II. 実施状況

平成 18 年度に佐賀大学で行われた授業評価は前学期と後学期で様式の変更があり、また、後学期より共通様式を用いない授業評価を実施することが出来るようになったために学部あるいは教員によって様々な実施形態が認められる。そこで、授業評価アンケートの結果を述べる前にアンケートの実施方法及び実施状況について整理しておきたい。

まず、授業評価アンケートの種類について述べる。平成 18 年度前学期まで使用していた授業評価アンケート（以下、旧授業評価アンケートとする）、平成 18 年度後学期より用いられるようになったアンケート（以下、新授業評価アンケートとする）、医学部および医学系研究科が独自に実施するアンケート（科目の種類によって異なる 3 つの形式がある。以下、医学部授業評価アンケートとする）、および各教員が独自に実施するアンケート（以下、独自形式アンケートとする）の 4 種類が存在している。この 4 種類の授業評価アンケートが各学部等でどのように利用されているのかを表 1 に示した。ここで独自形式アンケートに×が付いている組織は全学あるいは学部単位で共通のアンケート用紙によってのみ授業評価を実施することを表している（各学部等が定めた実施基準に基づく）。また、斜線は該当が無いことを意味している。

表1 各学部等の実施する授業評価アンケートの種類

	旧授業評価アンケート (前学期対象)	新授業評価アンケート (後学期対象)	医学部授業評価アンケート	独自形式アンケート (後学期対象)
文化教育学部	○	○		○
経済学部	○	○		×
医学部			○	
理工学部	○	○		○
農学部	○	○		×
教養教育運営機構	○	○		○
教育学研究科		○		○
経済学研究科		○		×
医学研究科			○	
工学研究科		○		○
農学研究科		○		×

次に、本年度の授業評価の実施率について述べる。前学期における旧授業評価アンケートの実施数は795件、後学期の新授業評価アンケートの実施数は1534件であり、それぞれ実施率として表せば59.0%と80.9%になる。ただし、この実施数には同じ科目を分担している教員がそれぞれ授業評価アンケートを行った場合も含まれているため、実際の実施率は僅かに低く推移するものと考えられる。表2に各部局毎の実施率をまとめた。

前学期は授業評価実施要領が改正される以前のものであり、講義科目は原則的に全てを対象としているものの、演習科目や実験科目、大学院の科目は任意であった。後学期はそれらを含め全てを授業評価アンケートの実施対象となったために各部局で実施率が高くなっている。特に農学部、経済学部、文化教育学部では50%を切っていた実施率がいずれも80%を超える結果となっている。また、研究科はそれまで実施していなかったにもかかわらず、すべての研究科が50%以上の高い実施率を示している。問題は継続的にこの実施率が保たれ、なおかつその結果が授業評価に結びつくかであるが、その効果を確認するには数年の期間が必要に思われる。

表2 部局別の授業評価アンケート実施率(独自形式アンケートは除く)。

	平成 18 年度前学期			平成 18 年度後学期		
	実施数	対象数	実施率	実施数	対象数	実施率
文化教育学部	203	457	44.4%	402	500	80.4%
経済学部	58	150	38.7%	169	206	82.0%
医学部	74	75	98.7%	64	67	95.5%
理工学部	191	264	72.3%	292	334	87.4%
農学部	50	134	37.3%	136	162	84.0%
教養教育運営機構	293	394	74.4%	283	316	89.6%
教育学研究科				110	158	69.6%
経済学研究科				11	15	73.3%
医学系研究科	22	41	53.7%			
工学系研究科				92	149	61.7%
農学研究科				39	68	57.4%

(前学期):開講科目数(Live Campus 上、ただし、集中講義を除き、通年科目を含む。)
(後学期):授業評価システム入力科目数(ただし、集中講義を除き、通年科目を含む。)
医学系研究科は前学期実施分のみ示す。

表3 部局別の独自形式アンケートの実施率(後学期実施分のみ)

	実施数	対象数	実施率(注)
文化教育学部	1	500	0.2
経済学部	2	206	1.0
医学部			
理工学部	6	334	1.8
農学部			
教養教育運営機構	0	316	0
教育学研究科	3	158	1.9
経済学研究科			
医学系研究科			
工学系研究科	16	149	10.7
農学研究科			

(注)対象数は表2と同じであるとして算出した。

表3に共通アンケート用紙を用いていない授業評価アンケート(つまり、独自形式アンケート)の実施率を示した。独自形式アンケートは受講者が極端に少ない場合や複数の教員が担当している場合など、マークシート方式の共通アンケートにはそぐわない場合に実施する授業評価と位置づけられている。科目名としては卒業研究や特別研究、少人数での実験、ゼミなどが該当すると考えられる。実際実施した部局は文化教育学部と経済学部、理工学部、教育学研究科、工学系研究科であった。学部での実施率は理工学部の1.8%が最も大きい、科目数では6科目でしかない。一方、大学院では工学系研究科の実施率が10.7%に達している。このうち、理工学部と工学系研究科で実施された独自形式によるアンケート例を資料5に示している。また、資料には本庄地区で実施されている共通アンケートを用いていない医学部のアンケートも示してある。医学部は科目の授業形態毎にアンケート項目の設定を変えており、本庄地区で実施されている共通アンケートよりも細やかな配慮がみてとれる。

個別授業評価に係わる情報が一切無い授業科目名

授業評価実施要領(資料3)によれば、共通アンケートもしくは独自形式アンケートによって全ての科目の授業評価を実施することが定められている。しかしながら、現実にはこれらの授業評価アンケートを実施していない授業科目が多数存在する。授業改善

実施要領（資料２）に基づき、各教育組織から提出のあった個別授業評価に係わる情報が一切無い授業科目名を以下に掲載する。今後、各教育組織には以下に示した授業科目数を少なくすべく適切な対応が望まれる。

なお、医学部・医学系研究科については授業評価実施要領および授業改善実施要領に該当していないために掲載していない。ただし、表２に示すように実施していない科目は少なく、学科長が個々の教員に授業評価についてコメントする取り組みが行われており、医学部以外の学部よりも授業改善についての取り組みは進んでいると考えられる。

＜文化教育学部＞開講していない科目は除いてある。（）で括ってある科目は通年科目、*は同一科目が他にある科目、**病気のためアンケートが実施できなかった科目、？は科目名の誤入力・不明をそれぞれ表す。

情報処理演習Ⅰ* 日本古典比較文学論 教育学課題研究 教育方法学概説
教育方法学特別演習 木工工芸 幾何学研究基礎 幾何学領域研究Ⅱ
プログラミング演習Ⅱ 技術科教育法Ⅱ 情報科教育法Ⅱ 情報処理演習Ⅱ A
電気基礎実習 岩石鉱物学 現代欧米の法と政治演習Ⅱ スポーツ A 4 演習
(医学一般) デザイン デザイン理論 基礎デザイン 総合デザイン
(美術・工芸課題研究) 東洋史演習Ⅱ (社会科教育課題研究Ⅱ)?
幾何学研究基礎 (幾何学特論Ⅰ) (社会福祉援助技術演習)
(学校教育課題研究)** 社会教育概論Ⅱ** 社会教育学特別演習**
生涯教育演習** 初等理科教育法Ⅰ* ドイツ語 10 ドイツ文学史
統計学研究基礎 進化古生物学 保育内容の研究:環境Ⅰ 機械工学実習
教科教育授業設計論 図工科教育法Ⅰ 図工科教育法Ⅱ 専門教育外国語Ⅱ
学校・学級経営論 フランス語 10 情報と職業 コーチング理論・実習
専門教育外国語Ⅱ 中等理科教育法Ⅲ 物理学通論Ⅰ 環境法要論Ⅰ
セム語学演習Ⅱ 国際社会の法と秩序Ⅱ 法学演習Ⅱ 中国語学演習Ⅱ
(中日比較文学特論) 日本語史演習Ⅱ 日本近現代史演習Ⅱ
ドイツ語 6 ドイツ文化論Ⅱ イギリス文学Ⅲ 国際文化学概論

＜経済学部＞*は教員が転出、**非常勤の科目

社会保障論 刑法Ⅰ* 特殊講義(東アジア関係論)**
特殊講義(japan's politics and forien politics)** 演習(2年)7科目
演習(3年)9科目 演習(4年)11科目

＜理工学部＞卒業研究を除く.

計算機組織論 II 基礎化学演習 II (クラス 1) 現代化学 物理学概説
実用英語基礎 I/II 微分積分学 IIA 微分積分学 IIB 機構学 熱力学 II
材料力学 II エネルギー変換工学 I 機械工学設計製図 交通システム学
都市と環境 環境科学

＜農学部＞

地域社会開発学概説 生態人類学 生産情報工学 園芸工学演習 II
応用動物学実験(複数教員担当) 同位元素利用論
実験生産環境学 II(複数教員担当) 水理学 II(担当教員定年)
水理学演習 II(担当教員定年) 水環境学(担当教員定年)
実験水気圏環境学 II(担当教員定年)

＜教養教育運営機構＞同一科目名は複数の部会にまたがるもの.

人間社会とコミュニケーション(ネット授業)
芸術と表現:有田焼入門(ネット授業) 境界を生きる文化(総合型講義)
芸術と表現:映像芸術論 境界を生きる文化(総合型講義)
チャレンジ佐賀学(ネット授業) 西洋思想の源流
人間社会とコミュニケーション(ネット授業)
境界を生きる文化(総合型講義) チャレンジ佐賀学(ネット授業)
ジャーナリズムの現在 現代の日本経済:食料の生産と流通
人間社会とコミュニケーション(ネット授業) チャレンジ佐賀学(ネット授業)
食生活と健康:肥満と脂肪代謝 食品の科学:食品栄養学 年齢と健康:薬の話
宇宙と地球の科学:地球の歴史 データ解析入門
佐賀環境フォーラム(ネット授業) 自然環境にやさしい水
セラミックスの不思議(ネット授業) 知的財産学(ネット授業)
医療入門 I 英語(一部の教員) ドイツ語 I (一部の教員)
ドイツ語 II (一部の教員) ドイツ語 III (一部の教員) 中国語 I (一部の教員)
中国語 II (一部の教員) 健康科学講義(一部の教員)
スポーツ実習 (一部の教員) 情報基礎概論(一部の教員)
情報基礎演習 II (一部の教員)

＜教育学研究科＞()で括ってある科目は通年科目, ?は科目名の誤入力・不明を

それぞれ表す。

健康運動実践方法学特別演習Ⅱ（学校教育課題研究）工芸特別演習Ⅲ
（幾何学特論Ⅱ）（技術教育課題研究）（技術教育実践教育研究）
技術教育特別演習Ⅱ 火山岩岩石学特別演習 障害児医学特論Ⅱ？
日本史特論AⅡ（美術・工芸課題研究）学校保健特別演習Ⅰ
（保健体育課題研究）（デザイン特論）（実践授業研究）
（社会科教育課題研究:社会・公民）（社会科教育学特別演習Ⅱ:社会・公民）
（社会科教育学特論Ⅱ:社会・公民）（学校保健特別演習Ⅱ）
（社会科教育学特論Ⅰ:社会・地歴）（障害児教育課題研究）日本教育史特別演習
（数学課題研究）統計学特論 家族関係学特別演習（美術教育課題研究）
美術教育特論 学校・学級経営学特別演習（学校教育課題研究）
（数学教育学特論Ⅱ）運動方法学特別演習Ⅰ（社会科課題研究:社会・公民）
（西洋史特別演習B）西洋史特論BⅡ（工芸特論Ⅱ）（美術・工芸課題研究）
（情報工学特論）運動学特別演習 実践授業研究（実践授業研究）
（社会科課題研究:社会・公民）英米文学特論ⅡB 運動生理学特別演習
住居学特別演習

<経済学研究科> *は非常勤の科目

国際関係論研究* 演習Ⅰ(2科目) 演習Ⅱ(1科目)

<工学系研究科> 特別研究を除く。

符号暗号特論 プログラミング環境特論 ベンチャービジネス論
量子コンピュータ特論 分析化学特論 セラミックス機能発現特論
耐熱材料設計学特論 Material recycling engineering
Inorganic solution Chemistry LSI 回路設計演習 知能電子制御工学特論
超短波長光利用科学技術工学特論 低平地地圏環境学特論

<農学研究科>

農業経済政策特論 生産システム情報学特別演習(複数教員担当)
作物生態生理学特論 動物資源学演習(複数教員担当)
土地生産機能学特論 土質工学特論 資源社会管理学特別演習(複数教員担当)
動物行動生態学特論 生物工学演習Ⅱ(複数教員担当)
生産情報工学特別演習(担当教員定年)

Ⅲ 授業評価アンケートの結果と分析

前述のように平成18年度に佐賀大学で実施した授業評価アンケートは4種類ある。独自形式アンケートに関しては統計処理を行うのに適していないため、ここでは旧授業評価アンケート、新授業評価アンケートおよび医学部授業評価アンケートについてのみ取り扱うものとする。

また、分析するアンケート項目は新授業評価アンケートのもののみとして、旧授業評価アンケートと医学部授業評価アンケートに準ずる項目が設定されている場合についてのみ言及することとする。なお、医学部は前学期、後学期とする学期制ではなく、フェーズⅠ～Ⅲに分けた期間を用いているため年間結果を用いた。ただし、科目毎にアンケート様式が若干異なるので講義科目、実習科目、PBL科目とそれらを総合した全科目に分けて表示した。

Ⅲ-(1) 学部等別の結果と解析

A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか

図1に出席率に対する学生の回答を示す。新授業評価アンケートと旧授業評価アンケートでは全体的な傾向に差は認められない。すなわち、農学部が最も高い出席率を回答しており、理工学部、文化教育学部、教養教育運営機構、経済学部の順に出席率が低下する傾向が認められる。特に経済学部では低い～中間と回答した学生が学部内の5～8%を占めている。医学部では実習科目において出席率が高いものの、講義科目やPBL科目では出席率が低くなる傾向がある。特にPBL科目では20%以上の学生が低い～中間と回答している。

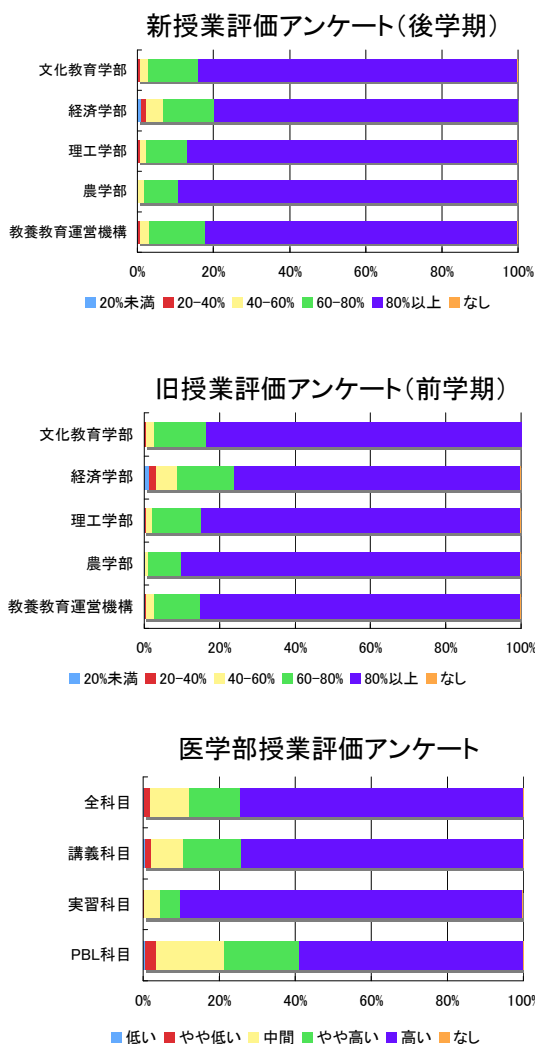


図1 出席率はどのくらいですか
に対する回答

A-2 予習をどの程度していますか

旧授業評価アンケートでは予習と復習を一括して尋ねていたが，大学設置基準ではそれぞれを区別して検討する事が述べられており，また科目によっても予習と復習では重点の置き方が異なっているために新授業評価アンケートではそれらを分けて尋ねることとした。

図2に回答結果を示す。予習時間を0時間と回答した学生の比率は経済学部で最も多く70%に達している。文化教育学部，農学部，教養教育運営機構は60%を超えるほぼ同程度の比率を示しており，理工学部のみが60%を下回っている。一方，3時間以上の予習をしていると回答した学生の比率は農学部で最も高く(3.7%)，次いで理工学部(3.5%)，文化教育学部(2.9%)，経済学部(2.5%)となっており，教養教育運営機構では1.2%しか占めていない。

A-3 復習をどの程度していますか

この質問項目に関しては旧授業評価アンケート，医学部授業評価アンケートにも該当するので図3に併せて示す。該当項目は旧授業評価アンケートの「予習・復習は毎週どの程度しましたか」及び医学部授業評価アンケートの「復習や関連事項の自己学習の程度」である。毎週の復習時間が0時間と回答した学生の比率

新授業評価アンケート(後学期)

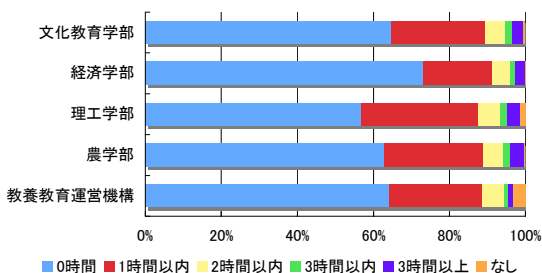
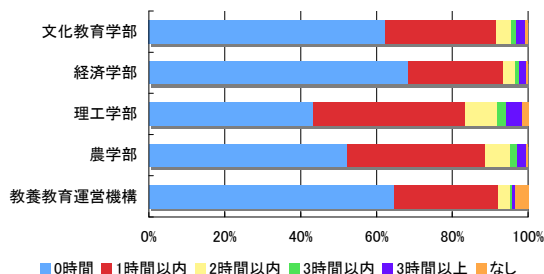
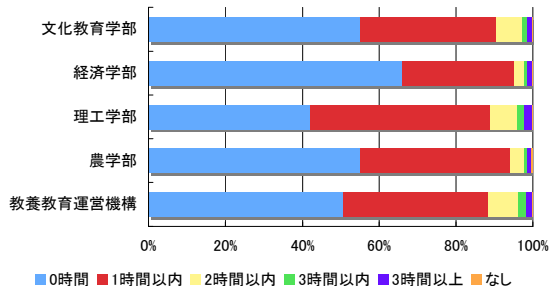


図2 予習を毎週どの程度していますかに対する回答

新授業評価アンケート(後学期)



旧授業評価アンケート(前学期)



医学部授業評価アンケート

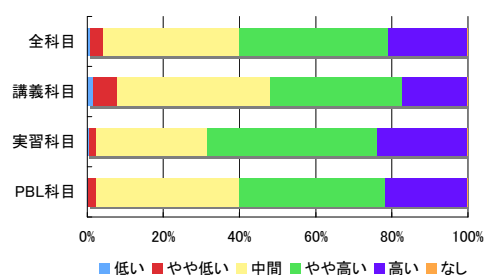


図3 復習を毎週どのくらいしていますかに関連する項目への回答

が最も多いのは経済学部であり60%を超えている。同様に60%を超えている組織として文化教育学部と教養教育運営機構があげられる。理系である農学部や理工学部では復習時間を0時間と回答した学生の比率は50%以下になっている。逆に3時間以上と回答した学生の比率は理工学部や農学部が大きい特徴が認められる。一般に復習を行う授業科目は実験や実習が多いと考えられるため、それらの科目を多くもつ理系学部の学生ほど復習をよく行っている実態が浮かび上がっている。前学期に行った旧授業評価アンケートでも各学部等の変化傾向は変わらないが、農学部と教養教育運営機構が占める0時間の比率が逆転している。教養教育運営機構の場合、外国語科目で予習を義務づけているものが多いのでそれを反映していると考えられる。医学部では実習科目において復習や自己学習を行った比率が大きく、PBL科目や講義科目では比率がやや低くなる傾向が認められる。これは先に述べたように実験・実習科目で復習が一般的に行われている実態と矛盾しない。

A-4 この授業の学習目標を把握している

近年、大学教育においても教育の質の向上を図り、努力することが義務づけられてきた。その指標のひとつとして受講者に学習目標を把握させているか否かが問われている。

図4にその結果を示す。「全く把握していない」、「把握していない」などの否定的回答の比率は経済学部、教養教育運営機構、理工学部で高く、農学部や文化教育学部で低い傾向がある。逆に「少しは把握している」、「完全に把握している」などの肯定的意見の比率は文化教育学部で高く60%を超えている。次いで農学部が高く、教養教育運営機構、理工学部、経済学部で50%程度の比率を示している。

学生対象アンケートにおいても学部等の学習目標について尋ねているが20%以下の低い周知度しか得られていない。個々の教員の取り組みに加え、大学全体として何らかの行動を取っていく必要がある。

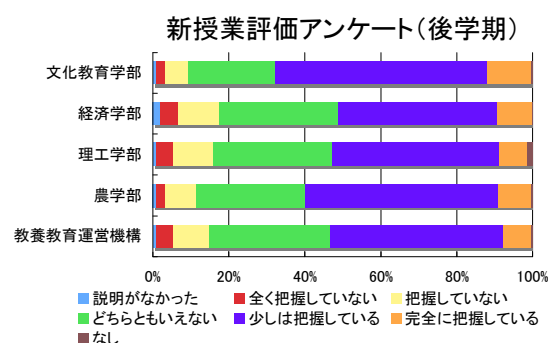


図4 この授業の学習目標を把握しているに対する回答

A-5 この授業の成績評価基準を把握している

この項目も大学の教育として当然達成しているものとして新たに設けられたものである。図5に結果を示す。同様の項目は学生対象アンケートでも実施されており、概ね30～40%の比率で成績基準を知っているとの回答を得ている。今回は科目毎に尋ねているため、より高い精度での回答であると考えられる。「全く把握していない」、「把握していない」とする学生の比率は経済学部でやや高いものの20%を下回っている。他の学部は10～15%を推移している。逆に「少しは理解している」、「完全に理解している」はいずれの学部でも60%近くに達しており、高い周知度を示している。

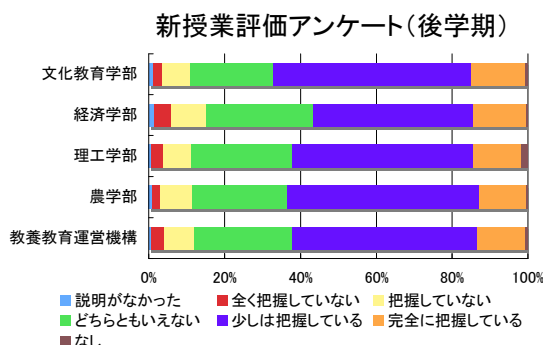
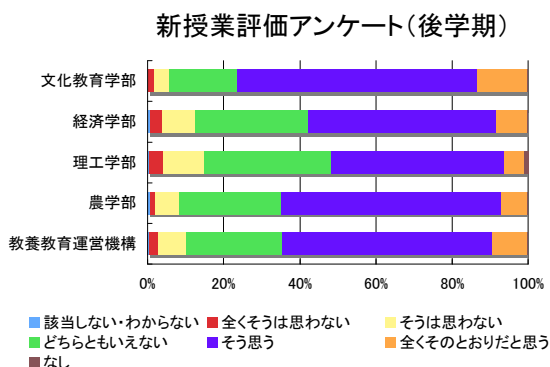


図5 この授業の成績評価基準を把握しているに対する回答



B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる

この項目は旧授業評価アンケートの「授業内容は理解できた」や医学部授業評価アンケートの「授業内容の習得、理解度」に該当する。結果を図6に示す。新授業評価アンケートと旧授業評価アンケートでは傾向に大きな差は認められないが、前者の方がやや理解度が進行していることを示している。「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的回答の比率は理工学部が最も高く、経済学部、農学部、教養教育運営機構、文化教育学部と徐々に比率は低くなる。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は

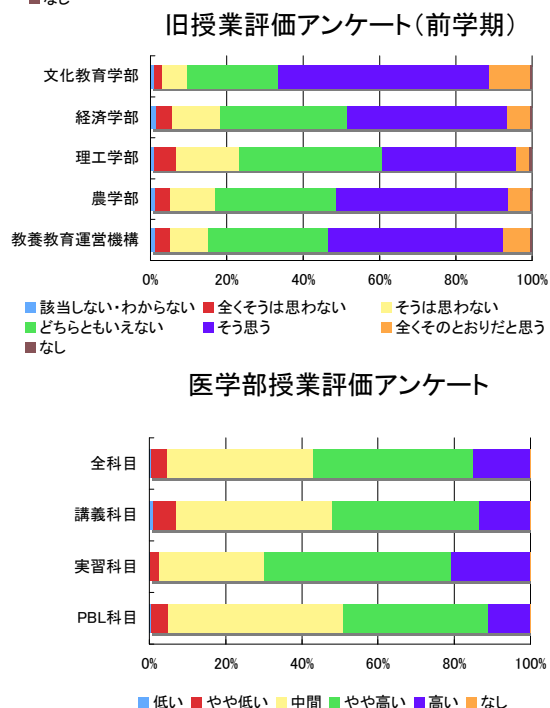


図6 この授業は理解できるに関連した項目への回答

逆に文化教育学部、教養教育運営機構、農学部、経済学部、理工学部の順に低くなる傾向が認められる。医学部では講義科目で理解度が低く、PBL科目、実習科目の順に理解度が増加する傾向が認められる。

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた

この質問項目に該当する旧授業評価アンケート項目は「この科目を受講後、この科目に対する興味は増加した」であり、医学部授業評価アンケートでは「授業内容に対して抱いた興味の程度」である。それぞれの回答結果を図7に示す。

新授業評価アンケートと旧授業評価アンケートに見られる傾向には大きな差異は認められない。「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的回答野比率は理工学部で最も高く、経済学部、教養教育運営機構、農学部、文化教育学部の順に低くなる傾向がある。逆に「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の比率は文化教育学部で最も高く60%を越えている。次いで農学部、教養教育運営機構、経済学部、理工学の順に比率が小さくなる傾向にある。特に理工学部では肯定的意見の比率が50%を下回っており、改善の必要がある。

医学部授業評価アンケートでは講義科目において「低い」、「やや低い」とする否定的意見の比率が高く、PBL科目や実習科目の順に低く推移している。逆に「やや高い」、「高い」の占める割合は実習科目で最も多く、80%近くに達している。講義科目はそれにやや劣るものの70%を越えており、最も割合の低いPBL科目でも70%近くに達している。

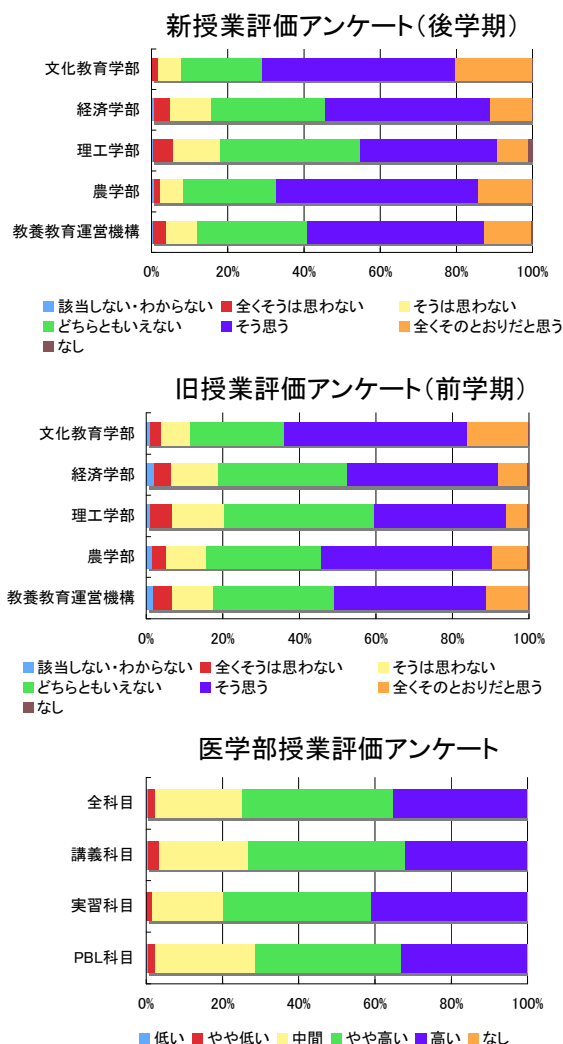


図7 授業内容の興味に関連した項目への回答

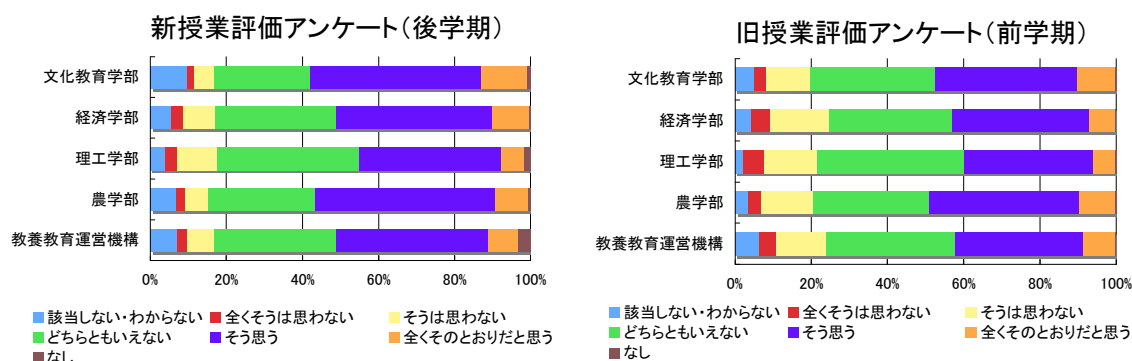


図8 黒板, OHP 等の使い方が効果的であったの項目に対する回答

B-3 黒板・ホワイトボード, スライド等の使い方が効果的である

この質問項目に該当する旧授業評価アンケートの項目は「黒板, OHP等の使い方が効果的だった」である。それぞれの回答結果を図8に示す。この項目に関しても新授業評価アンケートと旧授業評価アンケートでは大きな差は認められない。「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的な回答の比率は理工学部, 経済学部で高く, 教養教育運営機構, 農学部, 文化教育学部でそれらに比して僅かに低い値を示している。一方, 「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は農学部, 文化教育学部で高く50%を越えており, 教養教育運営機構, 経済学部がそれに続いている。最も割合が低いのは理工学部であった。

B-4 教材(テキスト, 配布資料, その他)はわかりやすかった

この質問項目に該当する旧授業評価アンケートの項目は「教科書(テキスト, 配付資料を含む)は役に立った」である。それぞれの回答結果を図9に示す。

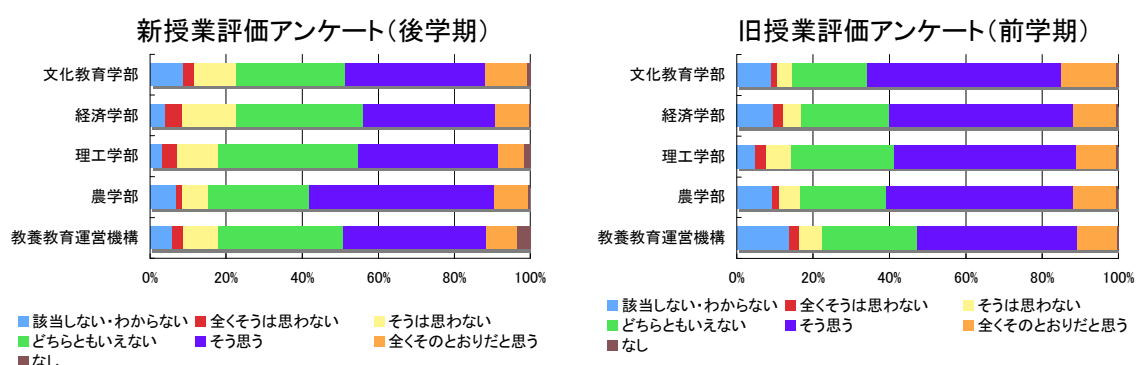


図9 教材はわかりやすかった関連した項目への回答

新授業評価アンケートは旧事業評価アンケートに比べ肯定的意見が減少する傾向が認められる。すなわち、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は新授業評価アンケートでは農学部で60%をやや下回る比率を示し、他は50%程度を推移している。一方、旧授業評価アンケートは教養教育運営機構や理工学部が60%をやや下回るものの他の3学部は60%を上回っている。逆に「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見も新授業科目アンケートの方で高い割合を示している。学部別に見ると農学部と文化教育学部で肯定的意見の比率がやや高く、経済学部、理工学部、教養教育運営機構では同程度の比率で推移している。

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている

この項目に対応する旧授業評価アンケートの項目は「シラバスが学習する上で役に立った」である。医学部授業評価アンケートでは講義科目対象のアンケートに「シラバスや配付資料の有効利用度」がこれに相当する。なお、医学部では以下の理由からPBL科目や実習科目においてシラバスの重要性をアンケート項目として取り上げていない。PBL科目については実際の症例を例示しながらチューターが小グループを指導し、指導で十分行き届かない点を授業するという形式を取っているため、シラバスによって学生に講義内容を周知させることが困難である。一方、実習科目では厚生労働省の卒前教育の指針に従って学習の目的と学習内容の概要を冊子にして配布しており、シラバスの重要性を問う意義に乏しい。ここでは新授業評価アンケートと旧授業評価アンケートの結果のみを示す（図10）。

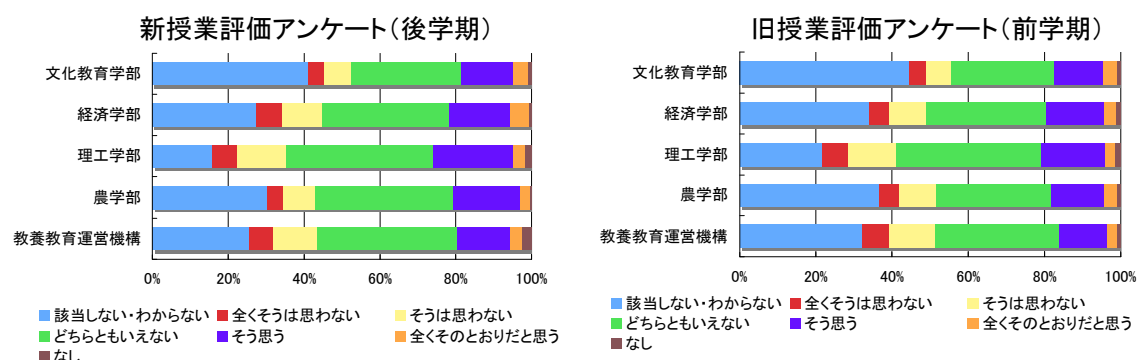


図 10 シラバスは学習する上で役に立っているに関連した項目への回答

この項目で特徴的なのは「該当しない・わからない」の占める比率が極めて大きいことである。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める比率は理工学部が最も高く、他はほぼ20%程度で推移している。学生対象アンケートでは全学の30%程度の学生がシラバスを参考にしていると回答しているが、今回の結果とは整合性が認められない。もっとも学生対象アンケートは3年次のみを対象としたアンケートであるために差異が生じたのかもしれない。佐賀大学では平成19年度の前学期から「シラバス作成に関する要項」を定め、各授業科目において第一回目の授業でシラバスの内容を説明することが義務づけられることになった。この取り組みが功を奏するならば19年度の授業評価アンケート結果は向上することが期待される。

B-6 授業内容はシラバスに沿っている

この項目に相当する旧授業評価アンケートの項目は「授業内容はシラバスに沿っていた」である。新授業評価アンケートの結果と併せて図11に示す。この項目でも新授業評価アンケートの方が旧授業評価アンケートに比べ否定的意見の占める比率が高く、肯定的意見の占める比率が低くなる傾向が認められる。しかしながら、「該当しない・わからない」と回答した学生の比率は新授業評価アンケートの方が僅かに低くなっている。学部別に見ると理工学部で「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の割合が最も大きく、経済学部、教養教育運営機構、農学部と推移し、文化教育学部では最も低くなる傾向がある。一方、「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見の比率は理工学部や経済学部で大きく、文化教育学部や農学部では小さい傾向がある。

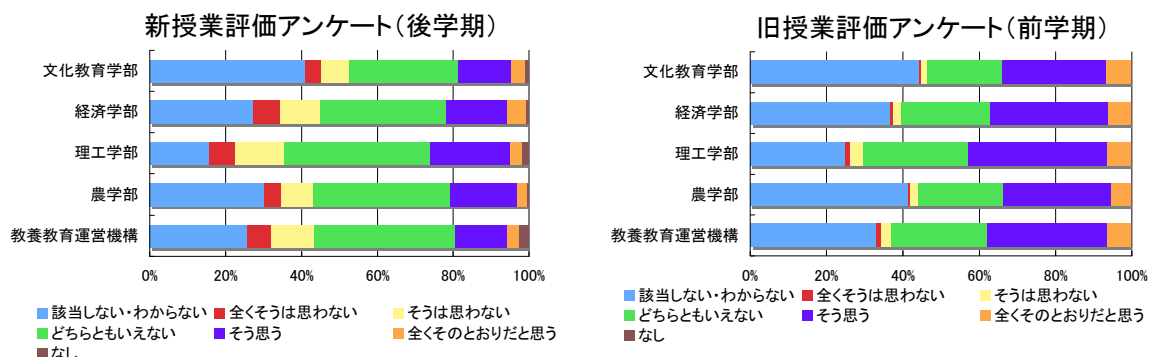


図 11 授業内容はシラバスに沿っているの項目への回答

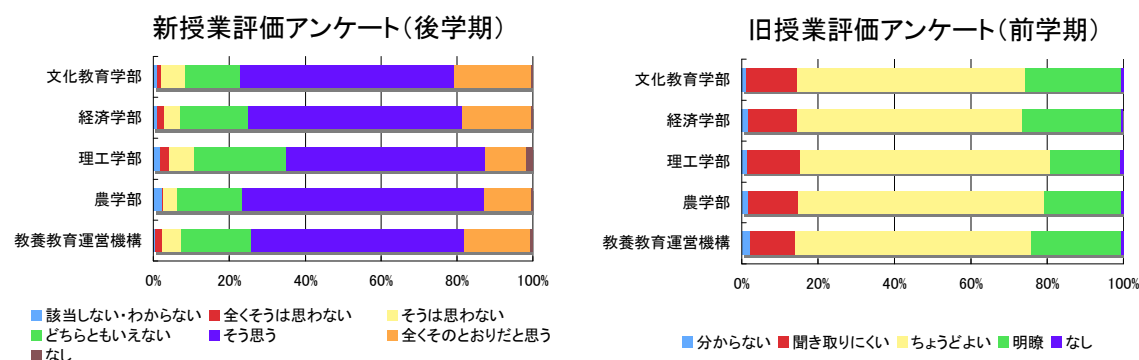


図 12 声の大きさ・明瞭さは適切だったの項目への回答

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった

旧授業評価アンケートでも「声の大きさ・明瞭さは適切だった」という項目が設けられており、新授業評価アンケートでもそれが引き継がれている。ただし、回答する選択肢が異なっており、旧授業評価アンケートでは4段階であったものが、新授業評価アンケートでは5段階となっている。図12にアンケート結果を示す。両アンケートで傾向に特別な差は認められない。すなわち、旧授業評価アンケートでは「ちょうど良い」が50%前後を占め、新授業評価アンケートでは「そう思う」がやはり50%を占める結果となっている。ただし、後者において理工学部のみ「全くそうは思わない」、「そうは思わない」、「どちらともいえない」の占める割合が大きい特徴が認められる。

B-8 話す速さは適切だった

この項目に関しても旧授業評価アンケートに設けられていた。結果を図13に

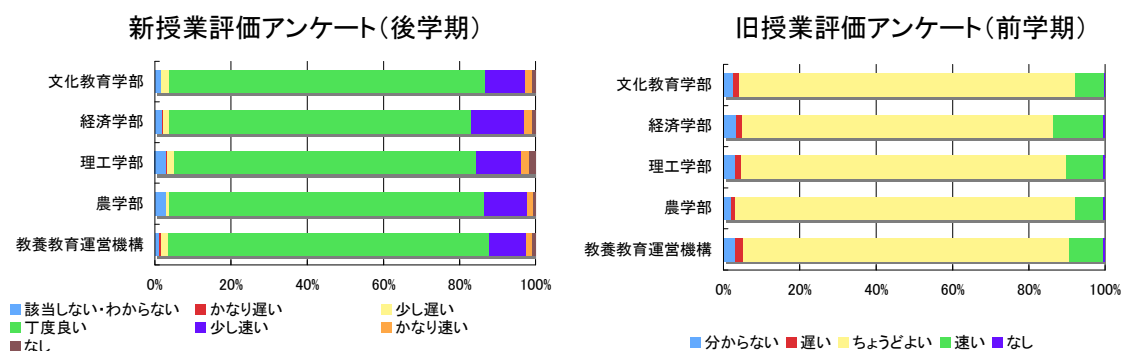


図 13 話す速さは適切だったの項目への回答

示す。この項目でも選択肢が異なっており、新授業評価アンケートではより細かく評価できるようになっている。ただし、認められる傾向は全く同じであり、特に差異はない。両アンケート共に「ちょうど良い」が70%を越えている。「速い」や「少し速い」などの意見が10～20%認められる傾向があり、経済学部でもっとも割合が大きくなっている。

B-9 授業の進む速さは適切だった

この項目も前述の2つの質問項目と同様に旧授業評価アンケートから引き継がれたものである。結果を図14に示す。

この項目も選択肢が異なっている。しかし、両者共に「ちょうど良い」の占める割合が70%を越えており、大きな差異は認められない。理工学部や農学部などの理系学部で「少し速い」や「速い」の占める割合が大きい特徴がある。

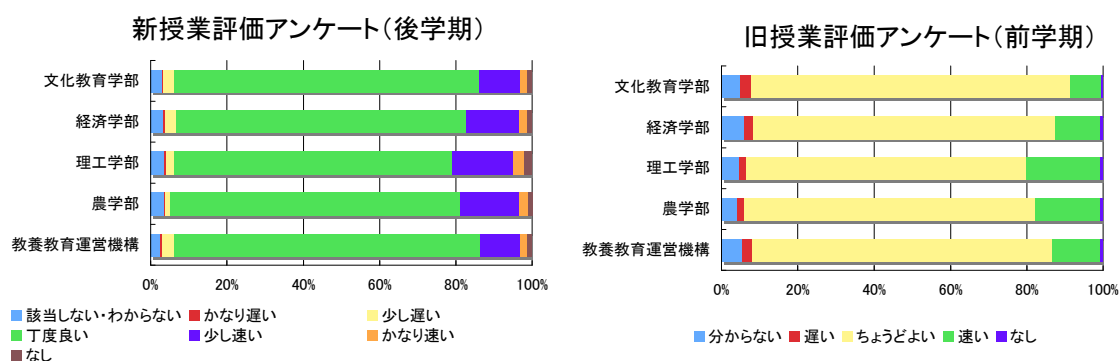


図 14 授業の進む速さは適切だったの項目への回答

C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる

旧授業評価アンケートでは「講義をわかりやすくする工夫が感じられた」という項目に相当する。結果を図15に示す。

旧授業評価アンケートと新授業評価アンケートで傾向に大きな変化は認められないが、農学部において「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見の占める割合が後者のアンケートで極めて小さくなっている点が特筆される。他の学部においても減少傾向は認められるが農学部ほどではない。

「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見も農学部で躍進が確認できる。他の学部では肯定的な意見が50～70%の範囲で推移している。

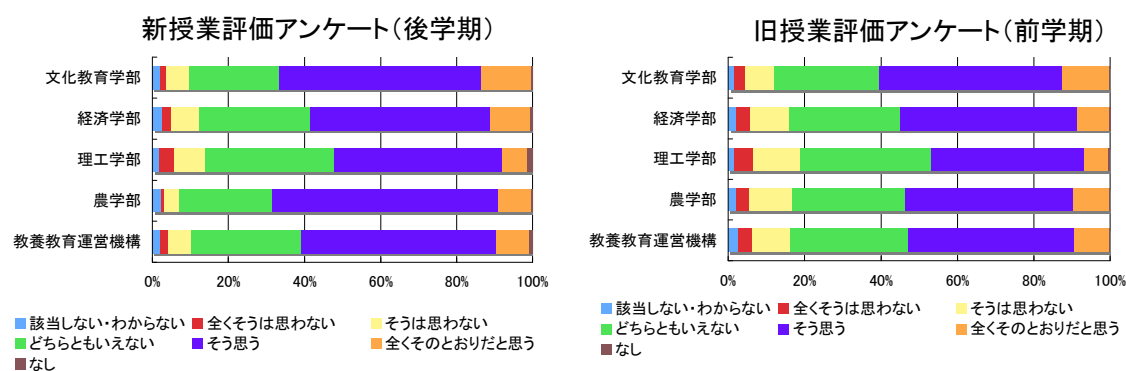


図 15 授業をわかりやすくする工夫が感じられるの項目への回答

C-2 学生の質問に適切に対応している

旧授業評価科目では「学生の質問に明確な回答を与えてくれた」に該当する。新授業評価アンケートの結果と併せて図16に示す。

新旧の授業評価アンケート結果を見ると傾向には特に大きな変化は認められない。ただし、「該当しない・わからない」との回答が占める割合が新授業評価アンケートで小さくなり、逆に「全くそのとおりだと思う」の占める割合が大きくなっている。学部別に見ると、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は農学部、文化教育学部で高く、60～70%近くに達している。一方、教養教育運営機構、理工学部、経済学部はほぼ同程度で推移し、60%弱にとどまっている。「全くそうは思わない」、「思わない」などの否定的意見の占める割合は理工学部で最も大きく、文化教育学部、農学部ではその割合が相対的に低くなる傾向がある。

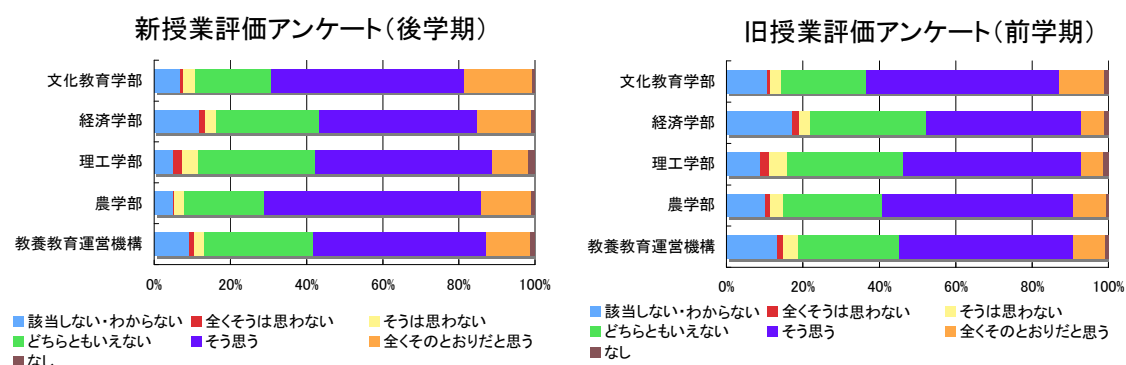


図 16 学生の質問に適切に対応しているの項目への回答

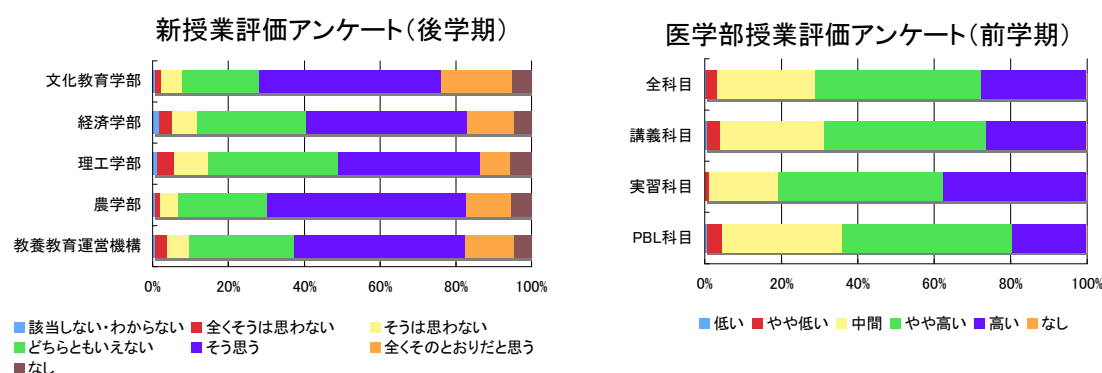


図 17 この授業を受講して満足が得られたの項目への回答

D. 満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた

この項目は旧授業評価アンケートには設けられていないが、科目毎の満足度について調査することが求められているために新たに設定されたものである。医学部授業評価アンケートには該当する項目として「授業内容の修得，理解度」が設定されているので、併せて図17に示した。

この項目は今までの項目と違い回答がない割合が大きく、新授業評価アンケートを実施したいずれの部局でも4.4～5.5%に及んでいる。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は農学部，文化教育学部で最も高く、60%を上回っている。次いで教養教育運営機構，経済学部が高く、55%程度に達している。肯定的意見の占める比率が最も低いのは理工学部で、50%程度である。一方、「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見の占める割合は理工学部が最も大きく、次いで経済学部，教養教育運営機構，文化教育学部，農学部と徐々に小さくなっていく。

医学部では実習科目で「高い」、「やや高い」などの肯定的意見の占める割合が大きく、80%に達している。次に講義科目でその割合が高く70%ほどであり、PBL科目は低いとは言っても60%を超えており、他の学部の肯定的意見の占める割合と同程度を示している。逆に「低い」、「やや低い」などの意見を占める割合はPBL科目で大きく、講義科目，実習科目の順に小さくなる傾向が認められる。

満足度に関しては他の項目との相関について項を変えて詳しく検討することにした。

Ⅲ-(2) 研究科別の結果と解析

ここでは平成18年度に初めて取り組んだ教育学研究科，経済学研究科，工学系研究科，農学研究科の新授業評価アンケートについて前述の学部別と同様に結果とその解析について述べる．なお，医学系研究科についても実施しているが，アンケート項目が他研究科と異なっているため，詳細は別に報告する．

A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか

図18に出席率に関する回答結果を示す．80%以上出席したという回答の占める割合は経済学研究科を除きほぼ90%に達している．特に教育学研究科と農学研究科でその割合が大きく，工学系研究科では僅かにそれらを下回っている．

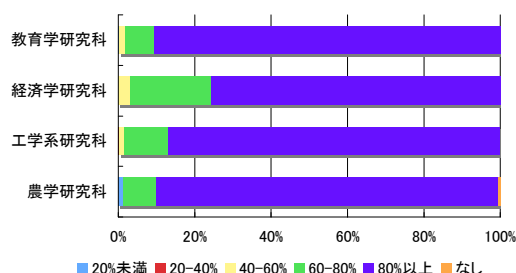


図 18 出席率はどのくらいですかへの回答

A-2 予習をどの程度していますか

図19に毎週の予習時間についての回答結果を示す．この結果は理系と文系で明瞭に差が認められる．すなわち，毎週の予習時間が0時間と回答した割合が教育学研究科，経済学研究科など文系研究科では15%以下にとどまっているが，農学研究科，工学系研究科などの理系研究科では30～40%に及んでいる．「3時間以内」，「3時間以上」と回答した割合も文系研究科では30～40%に達するが，理系研究科では20%以下となっている．

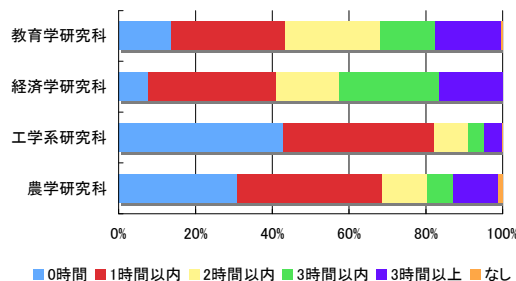


図 19 予習を毎週どの程度していますかへの回答

A-3 復習をどの程度していますか

図20に毎週の復習時間についての回答結果を示す．この項目も理系と文系で特徴が異なっている．文系の研究

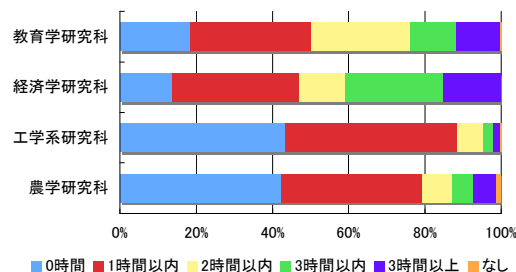


図 20 復習を毎週どの程度していますかへの回答

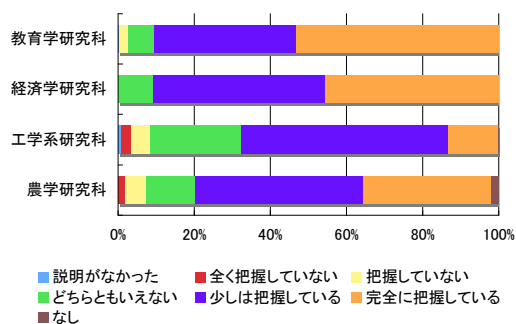


図21 この授業の学習目標を把握しているに対する回答

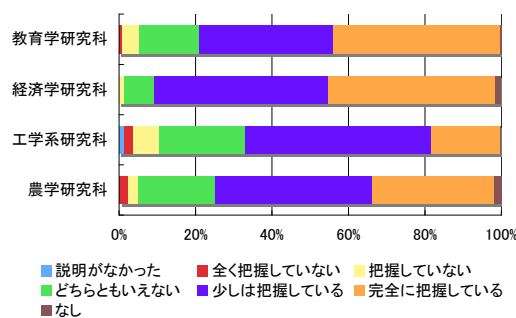


図22 この授業の成績評価基準を把握しているに対する回答

では「0時間」と回答している割合は20%を下回っているが、理系研究科は40%を上回っている。逆に「3時間以内」、「3時間以上」との回答の割合も文系研究科では20～40%を推移しているが、理系研究科では5～15%でしかない。

A-4 この授業の学修目標を把握している

回答結果を図21に示す。この項目では教育学研究科、経済学研究科では「全く把握していない」と回答した学生はいないにもかかわらず、工学系研究科や農学研究科では僅かではあるが存在している。また、「把握していない」との回答の割合も10%近くあり、文系研究科のそれを大きく上回っている。特に工学系研究科では「少しは把握している」、「完全に把握している」の占める割合が70%にとどまり、他の研究科に比して低い値を示している。

A-5 この授業の成績評価基準を把握している

回答結果を図22に示した。この項目では、「全く把握していない」、「把握していない」などの否定的な回答の比率は工学系研究科と教育学研究科で大きく、農学研究科や経済学研究科では相対的にその比率が低い特徴が認められる。特に経済学研究科では否定的な回答の比率はごく僅かであった。逆に、「少しは把握している」、「完全に把握している」などの肯定的意見の占める割合は経済学部で90%近くに達し、周知が徹底されていることを物語っている。教育学研究科や農学研究科はその割合が70%を超えており、前者は「完全に把握している」だけでも50%に達している。工学系研究科では肯定的意見が70%程度を占めるものの「完全に把握している」は20%にしか達していない。

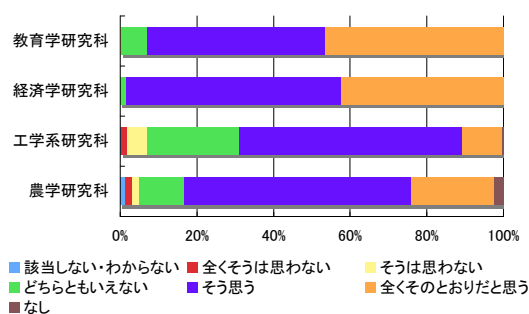


図23 この授業の内容は理解できる
に対する回答

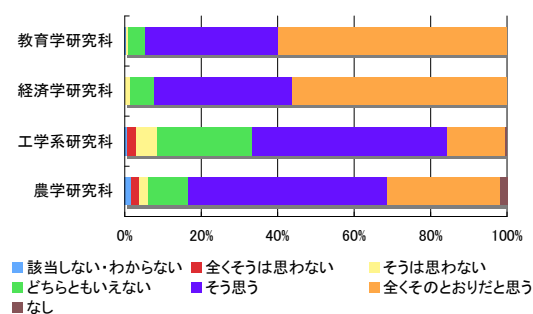


図24 この授業への興味の増加に
に対する回答

B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる

図23に授業の理解度に対する回答結果を示した。経済学部では「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」が98%を占めており、受講者のほとんどが授業内容を理解できていると感じていることが明らかとなっている。教育学研究科でも「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見はほとんど認められず、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が90%を占めている。一方、農学研究科や工学系研究科では否定的な意見が5～10%ほど認められ、肯定的な意見は70～80%にとどまっている。

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた

図24に授業に対する興味の程度を示した。これも理解度とよく似た傾向を示している。すなわち、文系研究科である教育学研究科や経済学研究科では「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見はほとんど無く、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が95%近くに達している。一方、理系研究科である農学研究科と工学系研究科では5～10%の否定的な意見が認められ、肯定的意見は農学研究科では80%、工学系研究科では70%弱認められる。

B-3 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である

結果を図25に示す。文化教育学部では「該当しない・わからない」の比率が20%を超えており、講義形態が黒板・ホワイトボード、スライドなどの使用に該当

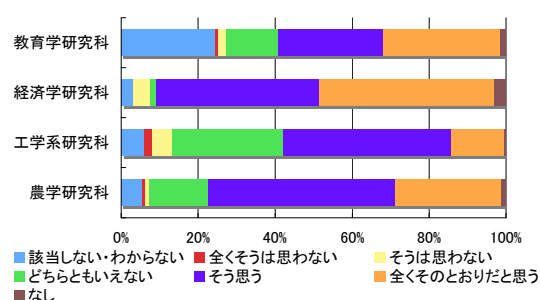


図25 黒板, OHP 等の使い方が効果的であったの項目に対する回答

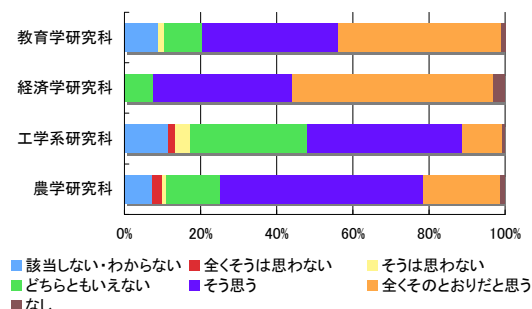


図26 教材はわかりやすかった関連した項目への回答

しない科目が多いことが明らかである。それを除くと「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見の割合は非常に少なく、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が60%近くに達している。経済学研究科は否定的意見は5%ほど認められるものの肯定的意見が90%近くに達している。農学研究科は文化教育学部以上に否定的意見の割合が小さく、肯定的意見の割合が75%と大きくなっている。工学系研究科では否定的な意見が10%、肯定的な意見が60%弱という結果であった。

B-4 教材(テキスト, 配布資料, その他)はわかりやすかった

結果を図26に示す。この結果も前項の結果と類似している。文系研究科である教育学研究科と経済学研究科では「全くそうは思わない」という回答はなく、「そうは思わない」という意見が教育学研究科に僅かに認められる程度である。一方、理系研究科である工学系研究科と農学研究科は「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見が5%ほどを占めている。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は経済学研究科で90%を越え、次いで教育学研究科、農学研究科、工学系研究科では50%を僅かに超える程度であった。

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている

回答結果を図27に示す。大学教育においてシラバスが有効に活用されているか否かは大変重要なことであり、科目毎に確認する必要が求められている。結果を見ると「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的な回答の比率は教育学研究科や経済学研究科では5%未満である。農学研究科や工学系研

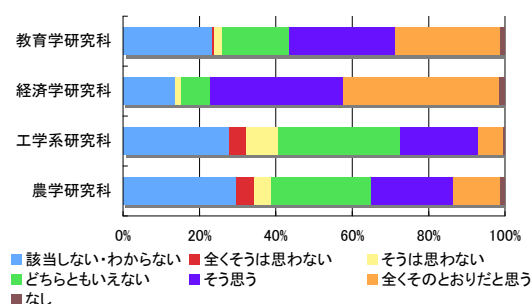


図27 シラバスは学習する上で役に立っているの項目への回答

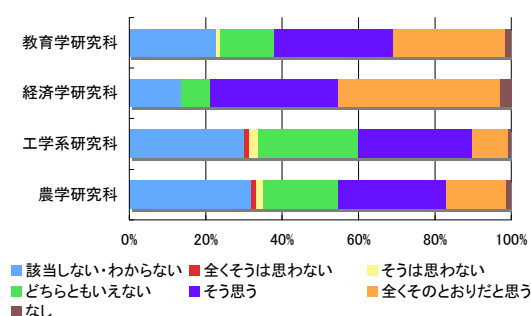


図28 授業内容はシラバスに沿っているの項目への回答

究科ではその比率が10～15%に達しており、否定的に考えている院生の割合が多いことが明瞭である。一方、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は経済学研究科で85%に達し、教育学研究科で60%弱、農学研究科で35%、工学系研究科では30%にとどまっている。

B-6 授業内容はシラバスに沿っている

図28に結果を示す。経済学研究科では「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見は無く、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」の回答の比率が85%に達しており、前項の結果と考え合わせるとシラバスが有効に活用されていることが伺える。教育学研究科も否定的な意見は「そうは思わない」が2%ほど認められるだけで、肯定的な意見が60%を越えている。工学系研究科や農学研究科では否定的な意見は認められるものの5%以下であり、肯定的な意見が40%を占めている。また、前項の結果と共通する特徴であるが、理系研究科では「該当しない・わからない」の回答の比率が30%を越えており、肯定的意見に匹敵する割合を占めている。

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった

図29にアンケート結果を示す。経済学研究科と教育学研究科では90%以上の院生が「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」となどの肯定的意見を寄せている。同様に工学系研究科や農学研究科でも80%近くの院生が肯定的な回答をしており、全体的に授業における声の大きさや明瞭さは適切であったことが伺い知れる。

B-8 話す速さは適切だった

結果を図30に示す。全体的に見て「丁度良い」が占める割合が80～90%に達している。また、「少し速い」、「かなり速い」との意見の比率はどの研究科でも10%強程度であった。工学系研究科と農学研究科では「かなり遅い」、「少し遅い」が僅かではあるが認められ、「該当しない・わからない」が3～10%程を占めている。

B-9 授業の進む速さは適切だった

結果を図31に示す。経済学研究科は「回答無し」が3%ほど認められるが、「丁度よい」が90%を占め、「少し速い」、「かなり速い」が7%を占める結果となっている。教育学研究科でも「丁度良い」の占める割合が80%を越え、「少し遅い」がごく僅か確認できる。また、「少し早い」、「かなり速い」が15%程を占めている。工学系研究科では「丁度良い」が80%近く占めるものの、「少し遅い」、「少し速い」、「かなり速い」などの意見が15%ほど認められる。農学研究科では「該当しない・わからない」の意見の占める割合が10%ほどに達しており、少し速い、「かなり速い」などの意見も10%強認められる。また、ごく僅かではあるが「かなり遅い」、「少し遅い」の回答が認められる。

C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる

結果を図32に示す。経済学研究科では「そう思う」、「全くそのとおりだと思

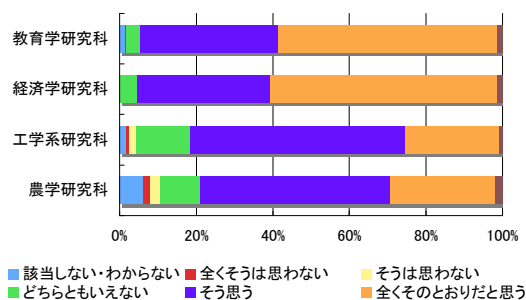


図29 声の大きさ・明瞭さは適切だったの項目への回答

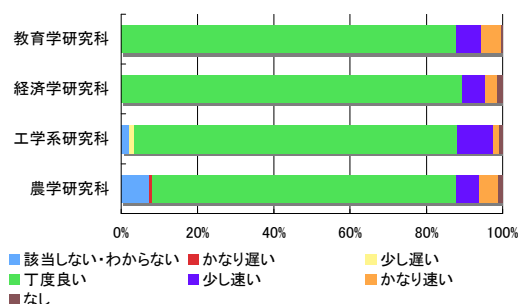


図30 話す速さは適切だったの項目への回答

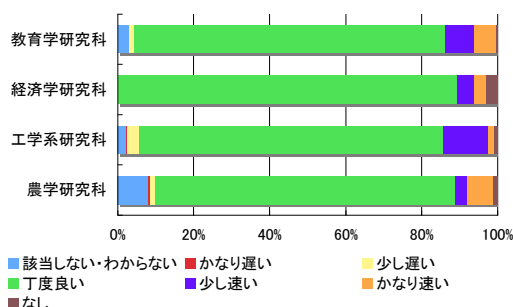


図31 授業の進む速さは適切だったの項目への回答

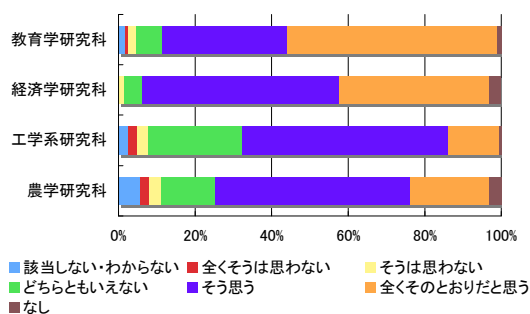


図32 授業をわかりやすくする工夫が感じられるの項目への回答

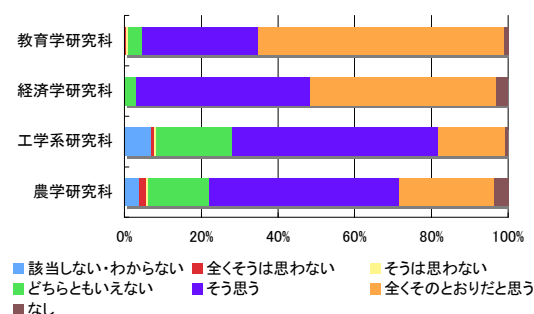


図33 学生の質問に適切に対応しているの項目への回答

う」などの肯定的意見の占める割合が90%に達しており、「そうは思わない」などの否定的意見はごく僅か認められる程度であった。教育学研究科では否定的意見が僅かに認められるものの、肯定的意見が90%近くを占めている。農学研究科および工学系研究科では否定的意見が5%ほど認められ、肯定的な意見は70%前後に達する。全体的に見て文系研究科の教員の方が授業を分かりやすくする工夫を行っているように考えられる。

C-2 学生の質問に適切に対応している

結果を図33に示す。この項目は前項の結果と類似している。すなわち、経済学研究科や教育学研究科で「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が90%以上を占めるのに対して、農学研究科や工学系研究科ではその割合が70%を超える程度である。否定的な意見も前者にはほとんど認められないが、後者には僅かであるが確認できる。この結果からも文系研究科の教員の方が学生に適切に対応していることが推測される。

D. 満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた

結果を図34に示す。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は教育学研究科や経済学研究科などの文系研究科で90%近くに達している。工学系研究科や農学研究科では肯定的意見の割合は70～80%にとどまっており、「全くそうは思わない」

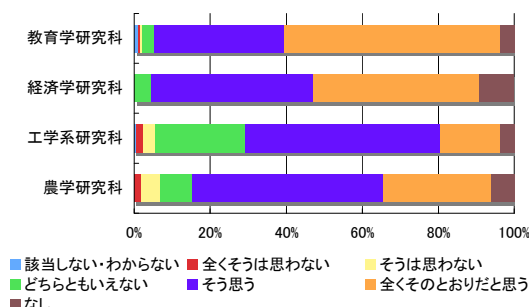


図34 この授業を受講して満足が得られたの項目への回答

「そうは思わない」などの否定的意見が5～10%ほど認められる。また、この項目では「回答なし」の比率が他の質問項目よりも大きく、経済学研究科では10%、農学研究科では8%、教育学研究科や工学系研究科では5%認められる。

Ⅲ-(3) 授業内容及び授業方法、教員の対応と満足度の関係

授業を受けた学生の満足度を指標にして、授業方法、授業内容や教員の対応との相関を解析した。満足度を指標にすること自体様々な問題を含んでいると考えられるが、ここでは満足度の高い授業ほど評価の高かった授業として解析している。無論、講義形式・実験形式・実習形式など授業の形態によって満足度も変化するものと考えられるが、詳細な検討は各部局の組織別授業評価に委ねることとして、ここでは全学的な変化傾向のみを示すこととする。

1. 学部別解析結果

図35に「満足度」と「黑板等の使い方」及び「教材等のわかりやすさ」の相関関係を示した。点示されている各打点ひとつがひとつの授業科目の平均値を示している。解析した授業科目数は文化教育学部402, 経済学部166, 理工学部292, 農学部136, 教養教育運営機構283の計1343科目である。医学部はアンケート項目の指標が異なっているためここには示していない。

図を見ると右上がりの正の相関を示しており、「黑板等の使い方」や「教材等のわかりやすさ」で高い評価を得ている授業科目ほど学生の「満足度」が高い

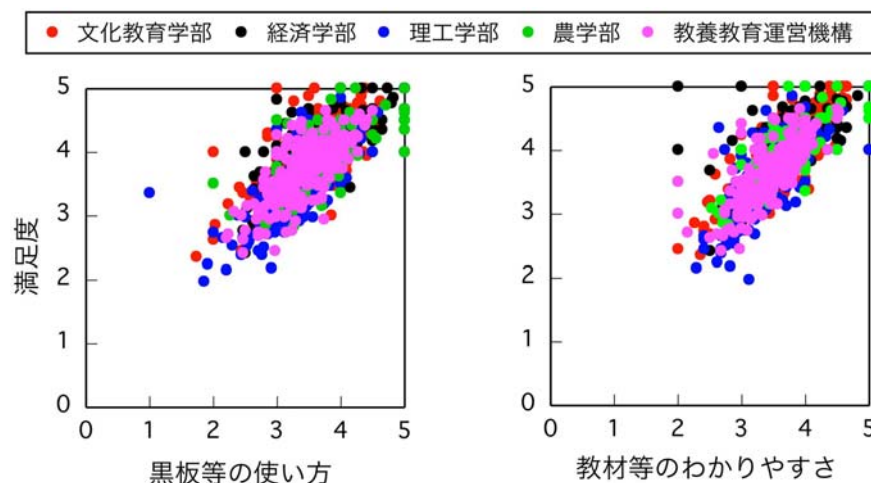


図35 満足度と授業方法との相関関係(1)

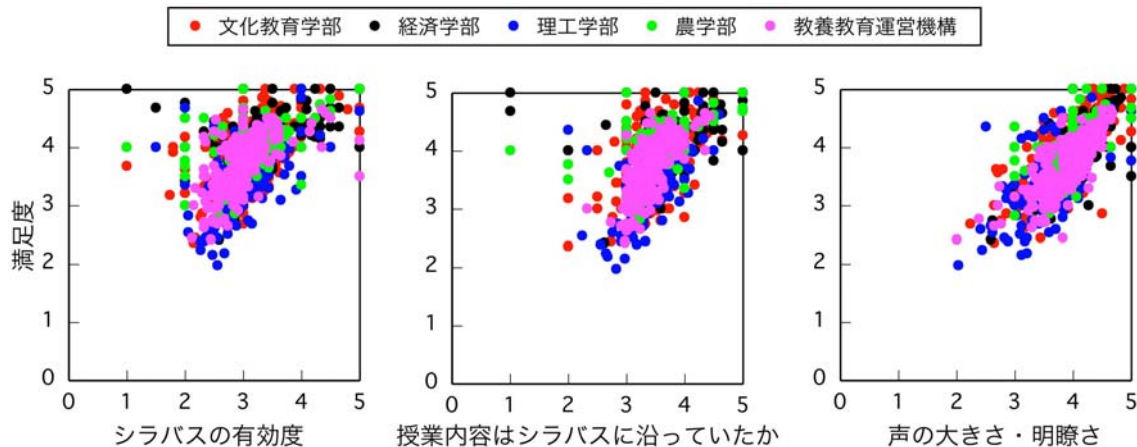


図36 満足度と授業方法との相関関係(2)

ことが明らかである。「黒板等の使い方」では3から4のやや評価が低い科目であつても高い満足度を示す場合があることが見て取れる。各学部が占める領域は完全に重複しているために学部間格差は認められない。

次に「満足度」と「シラバスの有効度」、「シラバスと授業内容の関係」、「教員の声の大きさ・明瞭さ」に関して相関関係をみる。図36に結果を示す。いずれも右上がりの正の相関が明瞭であるが、「シラバスの有効度」との相関は若干分散する傾向が認められる。すなわち、「シラバスの有効度」が低くても高い「満足度」を得ている科目が多いため上方へ拡散しているのであろう。一方、「授業内容がシラバスに沿っていたか」との相関ではやや分散が認められるもののそれほど顕著ではない。僅かではあるが「授業内容がシラバスに沿っていたか」の評価が2～3と低い科目であつても高い満足度を示している科目が認められる。教員の「声の大きさ・明瞭さ」は「満足度」とかなり高い相関を示している。なお、「話す速さ」や「授業の進む速さ」は中間値である3を「丁度良い」としているために相関を見ることは出来なかったためここには表示していない。

教員の態度である「授業を分かり易くする工夫」、「質問への対応」と「満足度」の相関を図37に示す。「分かり易くする工夫」と「満足度」は明瞭な相関関係が認められ、工夫をしている授業ほど学生は高い満足を得ていることが明らかである。また、「質問への対応」で評価の高い科目ほど「満足度」も高くなることが明らかである。

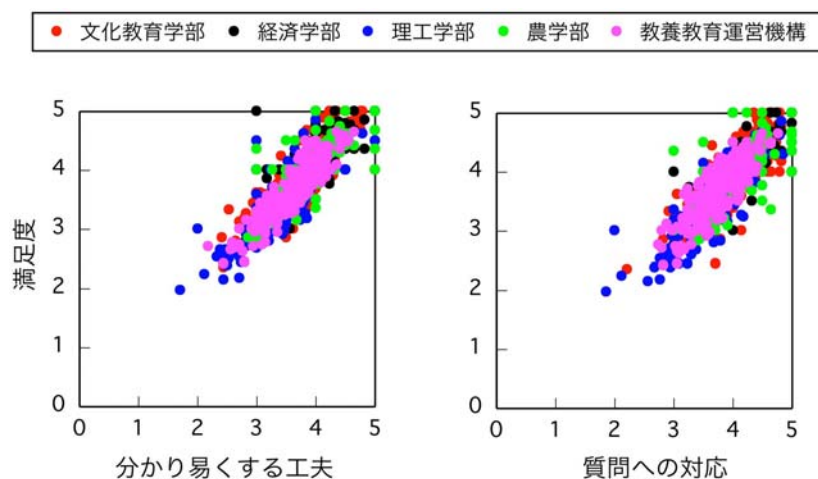


図37 満足度と教員の態度との相関関係

2. 研究科別解析結果

図38に「満足度」と「黒板等の使い方」及び「教材等のわかりやすさ」の相関関係を示した。解析した授業科目数は教育学研究科110，経済学研究科14，工学系研究科92，農学研究科39の計255科目である。医学系研究科はアンケート項目の指標が異なっているためここには示していない。

図を見ると右上がりの正の相関を示しており、「黒板等の使い方」や「教材等のわかりやすさ」で高い評価を得ている授業科目ほど学生の「満足度」が高いことを示している。「黒板等の使い方」では3から4のやや評価が低い科目であっても高い満足度を示す場合があり，教育学研究科の科目でその傾向が顕著である。

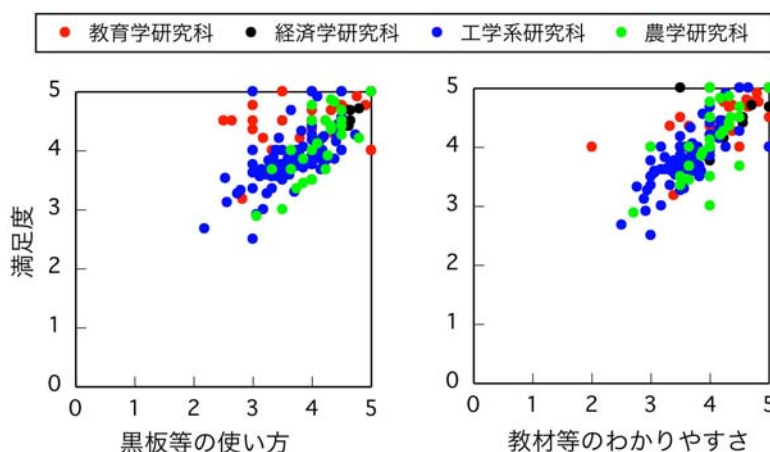


図38 満足度と授業方法との相関関係(1)

次に「満足度」と「シラバスの有効度」、「シラバスと授業内農の関係」、「教員の声の大きさ・明瞭さ」に関して相関関係をみる。図39に結果を示す。分散は著しいものの右上がりの正の相関が認められる。「シラバスの有効度」との相関は最も分散を示している。教育学研究科の科目は「シラバスの有効度」のスコアが低い場合であっても高い「満足度」を示している科目が多い。「授業内容がシラバスに沿っていたか」との相関でも分散が著しいものの明瞭な正の相関が認められる。教員の「声の大きさ・明瞭さ」は「満足度」比較的是っきりした相関を示している。

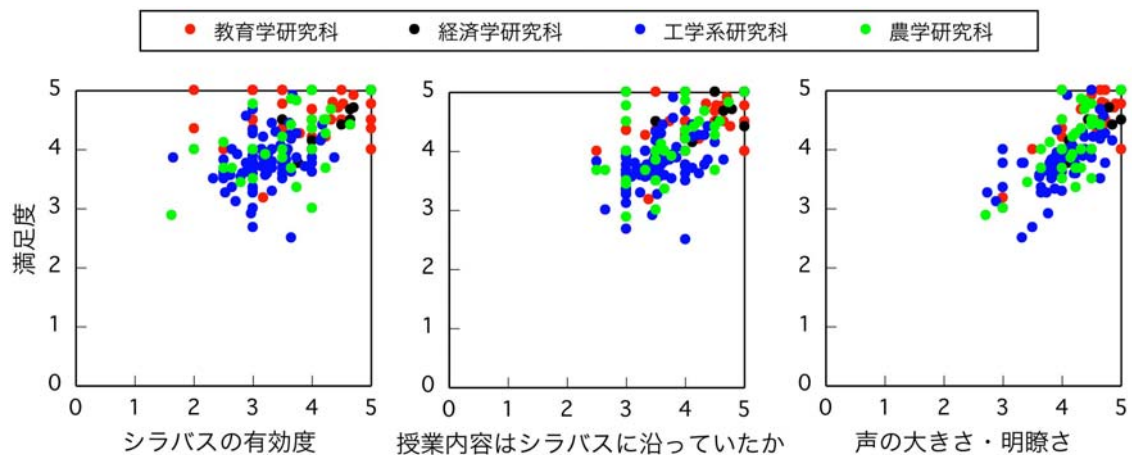


図39 満足度と授業方法との相関関係(2)

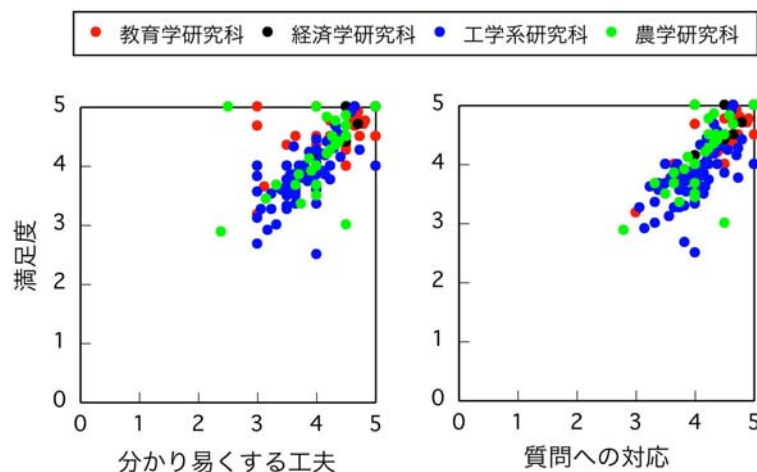


図40 満足度と教員の態度との相関関係

教員の態度である「授業を分かり易くする工夫」、「質問への対応」と「満足度」の相関を図40に示す。「分かり易くする工夫」と「満足度」は明瞭な相関関係が認められ、学部の授業と同じく、工夫を凝らしている授業ほど学生は高い満足を得ているようである。また、「質問への対応」で評価の高い科目ほど「満足度」が高くなる傾向も学部のそれと類似している。

Ⅲ-(4) 学生から高い評価を得ている授業科目の選定基準

1. 文化教育学部

文化教育学部では、学部 FD 委員会にて学生から高い評価を得ている授業科目の選考基準を協議し、満足度及び興味・関心の 2 項目を合計した値を用いることとしている。なお、対象となる科目は受講生が 10 名以上の科目であり、学部、大学院別に講義と（実習・実技・演習）のそれぞれのグループにおいて抽出することになっている。

2. 経済学部

現在のところ経済学部では、決めていない。

3. 医学部

医学部においては高い評価を得ている授業科目ではなく、在学していた期間を通して最もインパクトを与えてくれた教員を卒業間近に推薦して貰うことを数年前から行っている。内容は医学教育分野、医学科臨床実習分野および看護教育分野の 3 分野それぞれについて 10 名ずつ理由を併せて学生から推薦して貰っている。それらを修正した結果は医学部のホームページに掲載され、評価の高い教員の授業は記録・DVD 化して新任研修会などで活用されている。

4. 理工学部

<数理科学科>

授業に対する学生の満足度を筆頭に、授業に対する教員の工夫、学生に対する教員の接し方などを、アンケートから考察した。その結果、演習から一人、講義から一人の計 2 名を、最も学生による評価の高い教員として選定した。後日、選定された教員の講義の数理科学科教員による参観、ないしは、選定された教員自身による、授業の工夫、学生への接し方、教育内容などの披露による個人の学習を徹底する。どちらを選択するかは、選ばれた教員の自由とした。

<物理科学科>

共通アンケートを利用した科目について学科全体で集計を行い、アンケートの全項目において平均点と標準偏差を計算し、各項目で平均点の高い順に3科目ずつと標準偏差、最高スコアと最低スコアの差を表にして全教員に配布した。ベスト3にリストされた科目の担当教員は他の教員の求めがあれば、授業参観の受入、資料の提供などを通じて授業改善に資する情報を提供することが取り決められている。

<知能情報システム学科>

共通アンケート実施科目について学科集計を実施し、満足度（D項目）の上位科目を報告した。

<機能物質化学科>

従来、学生による授業評価アンケートを基にして授業ごとに総合点をつけ、その順位が高い授業を担当している教員を「ベストプロフェッサー」として表彰していた。しかし、平成18年度後学期より、特別研究、卒業研究、学生実験、演習なども授業評価アンケートの対象となり、今まで行ってきた講義の満足度だけでは比較できなくなってきた。そこで、卒業式の時に卒業生（大学院修了生も含む）に、「ベストプロフェッサー」を投票（2名連記）していただき、謝恩会の時に表彰することにした。

<機械システム工学科>

教員の教育顕彰に関する申し合わせを作成し、それにのっとって実施している。

<電気電子工学科>

組織別授業評価を実施していない。

<都市工学科>

学生から高い評価を受けている授業科目を選考していない。学生から受ける評価とは何か、どのように選考するかを検討してから実施する。

5. 農学部

各学科ごとに授業に対する学生の満足度をはじめ、授業に対する教員の工夫、学生に対する教員の対応などを考慮してベストティーチャーを選考する。選考された教員については農学部 FD 研修会などでその授業改善方法などについて話してもらうよう要請する。

6. 教養教育運営機構

現在機構では、この項目に対する明確な選考基準の確定に至っておらず、機構内の、部会教員会議、企画委員会、教務委員会、FD 委員会、運営委員会、協議会等で、実施可能な選考基準およびその FD 活動への効果的な活用法を検討中である。

選考基準の確定に至らなかった主な原因は以下の通りである。

- ・ 「高い評価を受けている授業」の定義が非常に困難であること。
- ・ 当機構が開講している教養教育科目は、学部や学科が開講している科目と大きく異なり、履修者の出身学部学科、当該教科に対する現在の知識レベルの分散が大きいこと。
- ・ 主題科目では、抽選による履修者決定が行われることが多いため、当該教科に対する興味が薄い場合も少なくないこと。
- ・ 当機構では、基本的に部会単位で開講科目をマネジメントしているが、各部会によって開講講義の形態や性質が異なり、機構全体で選考基準を統一することが困難であること。

IV 授業改善の取り組み状況に係る優れた点及び改善を要する点

1. 文化教育学部および教育学研究科

文化教育学部および教育学研究科において、それぞれ組織別授業評価を実施した。しかしながら、この組織別評価は今回が初めての試みであり、系統だった分析が行われたか、またこの結果をどのように授業改善やカリキュラム改善につなげていくかについては検討の余地がある。

複数の教員で実施されている授業科目では、アンケートの評価が曖昧になることが危惧される。また、アンケートを回収する際に教員が回収に関与しない、といった基本的な方策の改善が望まれる。

2. 経済学部および経済学研究科

(1) 優れた点

学部

- ①講義・演習を含むすべての科目について科目別授業評価アンケートの対象としている。
- ②大学入門科目のようにすべての教員に共通する科目についてのFD研究会を行い内容の充実を図っている。
- ③科目別授業評価アンケートとは別に教員が独自に意見聴取を行っている例がある。

研究科

- ①留学生と学部長の懇談会を実施している。

(2) 改善すべき点

学部

- ①科目別授業評価アンケートの結果を、改善に向けて組織的に利用していない。プライバシーを守りながら全教員のデータを学部長、教育委員会が閲覧する仕組みがないとできない。
- ②演習についても共通の科目別授業評価アンケートを実施しており、演習独自の授業改善のために有益な授業評価が行えていない。

研究科

- ③学部の演習と同様に少人数であるため、独自の授業改善のために有益な授業評価が行えていない。

3. 医学部および医学研究科

現在、医学部医学科の教育カリキュラムは専門前準備教育としての Phase I に始まり、基礎医学教育としての Phase II、臨床症例を絡めた臓器・系統別 PBL 教育を中心として臨床医学を学ぶ Phase III、そして、最後に、実際に患者に相對することになる臨床実習を中心とした Phase IV および Phase V へと進むことになっている。

平成 17 年 10 月 1 日付けの「医学部教育のあり方ワーキンググループ」（世話人：向井常博前医学部長）の中間報告書および平成 18 年 4 月 14 日付けの最終報告書（世話人：小泉俊三教授）の中に盛り込まれた提言により、医学科教育カリキュラムの見直しを検討することになった。そこで医学部ではカリキュラム上の様々な問題を解消することを目的に「医学科教育カリキュラム策定ワーキンググループ」を立ち上げ取り組んでいくこととした。詳細は省くが、Phase I～V の教育現場から提出された問題点と学生から指摘された問題点について対応していくことになっている。

4. 理工学部および工学系研究科

(1) 授業評価アンケートの集計とその利用に全学科で独自の取り組みを実施している。

- ・ 学科内での共通アンケート全科目を集計し、各教員に配布（数理、物理、知能、機能物質化学等）
- ・ 成績データとの関連も利用した授業点検（機械システム）

(2) 科目別授業評価アンケート以外に教育課程や学習支援について学生の意見聴取を実施している。（学科によっては数年に一度）

(3) JABEE 受審学科においては、卒業生など学外関係者に対して独自アンケートを実施している。（学科によっては数年に一度）

改善すべき点：

理工学部

- ・ 一部の学科では、個別授業評価は実施されているが、組織別授業評価が実施されていない。
- ・ 共通アンケートの様式が変わって間もないこと、組織的授業評価を始めたばかりであるなどの理由で、過去の実績と比較して改善しているかの検証が不十分な学科がある。
- ・ 組織別授業評価を実施しなかった学科があるので、全教員の協力のもと、組

組織的な授業評価と授業改善への活用を実施すべきである。

工学系研究科

- ・殆どの学科で授業評価を始めたのが平成18年度後期からで、検証が不十分である。また特別研究での授業評価の方法はさらに検討すべきである。
- ・特別コースなど英語による講義科目では、英語のアンケートを用意しなければならない。（同様の事情が他にもあれば、全学的に用意すべきである。）

5. 農学部および農学研究科

農学部

- ・優れた点；
 - 1) 全開講科目について学生による授業評価を行い各学科で独自の取り組みを行うようにした。
 - 2) 各教員が授業改善に独自の工夫を行っている。（配布資料の充実、小テストを実施、キーワード、感想、質問を毎回提出させるなど）
- ・改善を要する点；
 - 1) 組織別授業評価体制が十分でないので、さらに充実させる必要がある。
 - 2) 学生による授業評価の成果を高めるために授業科目に適したアンケート項目を検討する必要がある。

農学研究科

- ・優れた点；
 - 1) 少人数の科目でも学生による授業評価を実施している。
 - 2) 実験、実習科目では学生の満足度が高い評価を得ている。
- ・改善を要する点；
 - 1) 大学院科目についてシラバスの充実が必要である。
 - 2) 実験、実習科目に適したアンケート項目を検討する必要がある。

6. 教養教育運営機構

優れた点：

特になし

改善すべき点：

授業改善に対する取り組みとして、FD 講演会の開催、授業評価アンケートの実施、TA 実施報告書および授業点検・評価報告書の作成を行ったが、実施の過程で次の点の改善が必要となった。

① 授業評価アンケート実施、授業点検・評価報告書提出の徹底

後期の開講科目数が延べ約 350 あり、非常勤教員や外国人教員の任用、ネット授業などの非対面授業の開講など、授業評価アンケート実施の障害となる科目が多いため、アンケート実施率 80%、授業点検・評価報告書提出率 30%に留まった。

② 報告書提出方法の改善

年度末に多くの種類の報告書類提出が要求されるため、現在集計処理を行う側の都合で提出方法や提出先を指定しているが、結果的に煩雑となり、提出率低下の大きな原因となった。また、大学入門科目や情報基礎概論、情報基礎演習などは、本来当機構で運営していることになっているが、学部学科にその意識が薄いため、回収率が極めて低い。

③ アンケート実施依頼や報告書作成依頼書類の英語版の作成

外国語科目が多く、外国人の雇用も多いが、外国人教員のアンケート実施や報告書提出の比率が極めて低かった。

④ 授業評価実施方法の多様化

主題科目の中には、ネット授業や、主題分野を横断した総合型講義が開講されているが、VOD (Video On-Demand)形式の講義の場合、OCR 用紙形式の授業評価アンケートは困難である。これは、ネット授業のアンケート実施率が、14%と極めて低いことから明らかである。ネット授業には、その授業形態にマッチした授業評価方法の整備が急務である。

V 次年度の授業改善目標

1. 文化教育学部および教育学研究科

文化教育学部では学生による授業評価アンケートはすべての科目を対象としている。そのため、教育実習に代表される学外で行われる授業に対してどのようにアンケートを実施するか、その結果をどのように活かせばよいのか、といった課題が残されている。これに関しては、学部の教育実習委員会と協議しながら方策を探ることとしている。

教育学研究科では小人数教育における学生の授業評価の方法が問題である。アンケートを実施すること自体に疑問を抱く教員が存在する。有効な方策を検討したい。

2. 経済学部および経済学研究科

(1) 学部

- ①科目別授業評価アンケートの結果を、カテゴリー別（講義、演習）、人数別などで集計し、学部全体としての傾向を捉え、組織的な改善に利用する。
- ②演習について、共通アンケート以外の授業評価のあり方を検討する。その際、評価の公正さおよび学生の負担の軽減等に配慮する。

(2) 研究科

- ①研究科での講義は少人数が多く、学部の演習と共通する特徴を持っているので、共通のアンケート以外の授業評価のあり方を検討する。

3. 医学部および医学系研究科

医学部教育のプログラムの策定の要点は以下の4点であり、次年度以降順次対応していく予定である。

- ① 基礎医学教育における、臨床との接点を強調した教育の推進。
- ② PBL 教育（基礎医学および臨床医学の双方に関係し、両者の融合の役割を果たす）の拡充。
- ③ 臨床現場への早期接触。
- ④ 学年単位でのカリキュラム編成（カリキュラムの変更に対応しやすい）。

4. 理工学部および工学系研究科

理工学部：

共通アンケートを利用しない授業科目では、実験・演習など複数の教員が担

当する科目では学科内で決められた独自アンケートを実施している例もあるが、卒業研究等では教員任せの意見聴取も多く見られた。次年度はこれらの独自の取り組みについて情報交換し、より有効な授業評価の方法を検討したい。

また、理工学部自己点検評価の学外者による検証では、リメディアル教育や補習授業の必要性が指摘された。その対策の1つとしてe-Learningを利用する方法について講習会を開催した。次年度は講習会の成果として実践する教員が現れることを期待する。

工学系研究科：

特別研究などの小人数教育における学生の授業評価の方法がかなり問題となった。専攻によっては人数が少なくても共通アンケートを実施したところもある。一方、全教員に共通アンケートを利用しない場合の授業評価の必要性が浸透しておらずに、授業評価のデータが皆無の科目もあった。小人数教育で学生との距離が近いので、学生の意見は授業改善にとっての重要性は大きい反面、評価の公正さや学生の精神的負担になるなどの問題点もある。これらについては委員会やメーリング・リストを通して意見を交換しながら、有効な方法を検討したい。

平成19年度から大学院設置基準改正に伴い、必修科目を設定するなど、カリキュラム改訂が実施される。その効果も検証する必要があるだろう。

5. 農学部および農学研究科

農学部

- 1) 学生による授業評価アンケートの実施率は88.6%であり、これを100%になるよう努力する。
- 2) 実施した科目でもアンケートの回収率が低い科目があるので、回収率を高めるようにアンケート実施時期などを検討する。
- 3) シラバスの改善を図る。
- 4) 学生の予習・復習の時間を増やすような工夫を行う。
- 5) FD講演会、研修会への参加者を増やす努力をする。

農学研究科

- 1) 学生の理解を深めるため授業の進む速度を考慮する。
- 2) シラバスの充実を図る。
- 3) 特別研究や演習科目ではさらにきめ細かい指導を行う。

6. 教養教育運営機構

平成18年度の取り組み状況に基づき、下記の目標を設定した。

1. 授業評価アンケートの完全実施
2. 授業点検・評価報告書提出率向上
3. 報告書提出方法の検討
4. アンケート実施依頼や報告書作成依頼書類の英語版の作成
5. ネット授業用の授業評価アンケート方法の整備

おわりに

以上述べてきたように平成18年度は授業評価の実施とその結果活用において大きな転換期を迎えたといえる。なぜなら、従来あまり活用の道が開けていなかった学生による授業評価アンケートを本来の目的である授業改善に結びつけようとする努力がはじめられたからである。それは学生による授業評価アンケートの実施率も急激に上昇していることから明かであろう。しかしながら、佐賀大学の全ての教員がその趣旨を理解し、協力しているのかと問われれば、答えは否である。実際に、「授業評価結果を用いた授業改善実施要領」や「佐賀大学学生による授業評価実施要領」に定められている組織別授業評価を行っていない教育組織が残っているからである。もちろん、それらの教育組織が授業評価そのものを否定しているとは思われない。組織の中には授業改善に前向きな教員が大勢いることとは間違いない。したがって今後の目標としては組織別授業評価を行えない状況を如何に打破していくかではなかろうか。そのひとつのステップとしては、教育組織内のFD委員に限っては組織内全教員の授業評価結果を閲覧させる権限を持たせることにあると思われる。そうでなければ、FD専門委員は組織別授業評価を行うことは不可能である。組織別授業評価を導入した初年度であることから、各学部の足並みが揃っていないことは仕方がないのかもしれない。しかし、佐賀大学での教育改革を推進するためには必要な活動であることは事実である。

全国的に見て、学生による授業評価結果を開示している大学はごく僅かであり、多くは解析結果のみを公開している。佐賀大学も解析結果のみを開示しているが、そのかわりに個々の教員が自分の授業評価結果を見て授業改善について報告する「授業点検・評価報告書」を準備している。この授業点検・評価報告書は学内に限って公開される予定であるが、学生にとっては今まで行ってきた授業評価アンケートがどのように活用されているのかを知る良い機会となるであろう。

佐賀大学は遅れが目立っていた授業改善への第一歩をようやく踏み出したにすぎない。今後さらなる飛躍を望むには全学の教員の理解と協力が必要であることは言うまでもない。

資料1 項目の基礎集計表

<平成18年度前学期>

A-1 出席率はどのくらいですか

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
文化教育学部	0.12	0.32	2.25	13.62	83.67	0.02
経済学部	1.25	1.94	5.45	15.23	76.07	0.06
理工学部	0.21	0.40	1.59	13.00	84.70	0.09
農学部	0.15	0.15	0.89	8.45	90.21	0.15
教養教育運営機構	0.23	0.36	2.01	12.35	84.97	0.08

A-2 予習・復習を毎週どの程度しましたか

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	54.96	35.51	6.73	1.39	1.30	0.11
経済学部	65.95	29.06	2.81	0.87	1.04	0.26
理工学部	42.06	46.83	7.12	1.89	1.88	0.22
農学部	55.12	38.85	3.86	0.69	1.19	0.30
教養教育運営機構	50.71	37.79	7.85	1.85	1.60	0.20

A-3 この科目に意欲的に取り組んだ

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	0.71	1.71	7.03	27.13	52.84	10.50	0.07
経済学部	1.13	3.60	11.80	33.18	44.17	6.00	0.12
理工学部	0.65	3.20	11.66	37.51	41.17	5.66	0.15
農学部	1.33	1.93	9.69	34.55	46.91	5.39	0.20
教養教育運営機構	0.92	3.40	10.64	33.85	43.62	7.44	0.12

A-4 この授業を正當に評価できると思う

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	2.73	1.05	3.80	20.90	58.18	13.10	0.23
経済学部	2.73	2.23	5.66	27.73	53.05	8.24	0.38
理工学部	1.72	2.32	6.83	31.28	50.63	6.58	0.64
農学部	2.47	1.73	3.81	27.48	56.90	7.17	0.44
教養教育運営機構	2.62	2.31	5.24	28.98	51.32	9.13	0.39

B-1 この授業はよくまとまっていた

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	1.50	1.48	6.34	21.05	55.80	13.71	0.12
経済学部	2.67	2.23	7.42	23.64	54.55	9.34	0.15
理工学部	1.54	3.48	9.72	29.45	48.45	7.09	0.27
農学部	1.73	2.72	9.79	23.04	52.60	9.89	0.25
教養教育運営機構	2.06	2.76	8.10	25.76	51.57	9.55	0.20

B-2 授業内容はシラバスに沿っていた

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	44.29	0.59	1.50	19.56	27.35	6.59	0.12
経済学部	36.54	0.96	2.00	23.43	30.77	6.15	0.15
理工学部	24.85	1.27	3.33	27.75	36.31	6.33	0.15
農学部	41.32	0.64	1.93	22.39	28.42	5.09	0.20
教養教育運営機構	33.10	1.21	2.67	25.27	31.32	6.30	0.13

B-3 この科目を受講後、この科目に対する興味は増加した

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	1.11	2.91	7.48	24.37	48.11	15.78	0.25
経済学部	2.15	4.26	12.38	33.70	39.50	7.54	0.46
理工学部	1.17	5.65	13.64	39.12	34.38	5.74	0.30
農学部	1.38	3.91	10.43	30.00	44.69	9.24	0.35
教養教育運営機構	1.89	4.92	10.81	31.42	39.93	10.77	0.26

B-4 この科目を受講した価値があった

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	1.18	1.93	4.02	16.67	56.60	19.44	0.16
経済学部	2.12	3.39	5.80	25.49	52.20	10.70	0.29
理工学部	1.56	3.77	7.08	31.01	47.82	8.44	0.32
農学部	1.73	2.62	5.39	23.92	55.17	10.87	0.30
教養教育運営機構	1.46	3.62	5.79	25.20	50.35	13.33	0.24

B-5 授業内容は理解できた

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	1.02	2.14	6.39	23.90	55.39	10.62	0.54
経済学部	1.60	4.09	12.70	33.09	42.02	6.12	0.38
理工学部	0.88	5.88	16.54	37.30	35.12	3.52	0.77
農学部	1.24	4.05	11.67	31.69	45.03	5.98	0.35
教養教育運営機構	1.24	4.04	9.86	31.56	45.62	7.18	0.50

C-1 講義を分かりやすくする工夫が感じられた

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	1.71	2.70	7.66	27.24	47.97	12.55	0.18
経済学部	2.26	3.45	10.24	29.06	46.46	8.21	0.32
理工学部	1.49	5.08	12.25	34.39	39.85	6.52	0.40
農学部	2.08	3.36	11.32	29.71	43.85	9.49	0.20
教養教育運営機構	2.60	3.79	9.91	30.70	43.43	9.39	0.18

C-2 黒板、OHP等の使い方が効果的だった

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	4.98	3.09	11.59	32.88	37.25	9.87	0.34
経済学部	4.23	4.93	15.49	32.54	35.64	6.87	0.29
理工学部	2.01	5.56	13.99	38.67	33.73	5.65	0.38
農学部	3.46	3.36	13.84	30.30	39.45	9.24	0.35
教養教育運営機構	6.21	4.59	13.05	33.93	33.53	8.40	0.29

C-3 教科書(テキスト、配付資料を含む)は役に立った

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	9.16	1.43	3.93	19.67	50.86	14.41	0.55
経済学部	9.48	2.70	4.67	23.14	48.17	11.37	0.46
理工学部	4.82	3.03	6.31	27.04	47.82	10.44	0.53
農学部	9.34	1.88	5.44	22.49	48.94	11.37	0.54
教養教育運営機構	13.88	2.63	5.83	24.91	41.95	10.35	0.46

C-4 シラバスは学習する上で役に立った

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	44.47	4.37	6.78	26.83	13.03	3.68	0.84
経済学部	34.08	5.22	9.80	31.32	15.20	3.28	1.10
理工学部	21.69	6.90	12.48	38.08	16.84	2.52	1.49
農学部	36.68	5.04	9.99	29.96	14.09	3.26	0.99
教養教育運営機構	32.03	7.24	12.07	32.47	12.73	2.60	0.86

C-5 声の大きさ・明瞭さは適切だった

	分からない	聞き取りにく い	ちょうどよい	明瞭	なし
文化教育学部	1.12	13.32	59.91	25.03	0.62
経済学部	1.83	12.67	58.93	26.10	0.46
理工学部	1.34	13.99	65.52	18.32	0.83
農学部	1.78	13.20	64.21	20.17	0.64
教養教育運営機構	2.27	11.72	62.00	23.32	0.69

C-6 話す速さは適切だった

	分からない	遅い	ちょうどよい	速い	なし
文化教育学部	2.59	1.71	87.81	7.64	0.25
経済学部	3.34	1.54	81.44	13.37	0.32
理工学部	2.98	1.59	85.08	9.96	0.39
農学部	2.03	1.29	88.83	7.46	0.40
教養教育運営機構	3.23	1.79	85.70	8.94	0.35

C-7 授業の進む速さは適切だった

	分からない	遅い	ちょうどよい	速い	なし
文化教育学部	4.87	2.78	83.81	8.01	0.52
経済学部	5.97	2.26	79.23	11.92	0.61
理工学部	4.63	1.82	73.29	19.56	0.70
農学部	4.00	1.93	76.12	17.30	0.64
教養教育運営機構	5.37	2.62	78.76	12.56	0.69

D-1 学生の質問に明確に回答を与えてくれた

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	10.66	0.96	2.70	22.12	50.80	11.53	1.23
経済学部	17.34	1.60	3.07	30.16	40.55	6.18	1.10
理工学部	8.87	2.45	4.59	30.17	46.77	5.70	1.46
農学部	10.13	1.33	3.56	25.65	50.22	8.30	0.79
教養教育運営機構	13.20	1.82	3.73	26.65	45.31	8.37	0.93

D-2 公平に学生に対応してくれた

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	7.00	0.89	2.21	15.73	59.16	13.76	1.25
経済学部	12.79	1.48	1.89	24.54	50.15	7.98	1.19
理工学部	7.33	1.84	3.00	27.05	52.45	6.86	1.48
農学部	7.96	0.74	1.48	18.88	60.45	9.64	0.84
教養教育運営機構	9.00	1.79	2.50	20.85	54.84	10.12	0.90

D-3 教官は学生とのコミュニケーションをはかるように努めた

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	7.27	1.86	4.94	23.05	46.72	14.96	1.21
経済学部	13.95	2.61	6.35	32.05	36.28	7.54	1.22
理工学部	7.36	2.79	6.23	34.60	41.37	6.06	1.59
農学部	8.75	2.17	7.02	28.92	44.54	7.91	0.69
教養教育運営機構	9.92	2.63	6.11	31.08	39.41	9.82	1.02

＜平成 18 年度医学部アンケート結果＞

講義に対する出席の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.39	2.84	18.14	19.61	58.92	0.10
実習科目	0.17	0.12	4.13	5.18	90.17	0.23
講義科目	0.59	1.54	8.39	15.11	74.24	0.13
全科目	0.39	1.50	10.22	13.30	74.44	0.15

復習や関連事項の自己学習の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.29	2.06	37.65	38.33	21.57	0.10
実習科目	0.52	1.92	29.14	44.44	23.73	0.23
講義科目	1.61	6.30	40.12	34.72	17.08	0.16
全科目	0.81	3.43	35.64	39.17	20.80	0.16

授業内容の修得, 理解度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.59	4.22	45.88	38.33	10.78	0.20
実習科目	0.23	2.44	27.34	49.21	20.54	0.23
講義科目	0.95	5.99	41.05	38.53	13.31	0.16
全科目	0.59	4.22	38.09	42.02	14.88	0.20

授業に対する総合的満足度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.69	3.82	31.47	44.41	19.41	0.20
実習科目	0.12	1.05	18.03	43.34	37.17	0.29
講義科目	0.69	3.22	27.39	42.42	26.09	0.20
全科目	0.50	2.70	25.63	43.39	27.56	0.23

教科目の重要性の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.29	0.69	18.92	31.18	48.73	0.20
実習科目	0.00	0.99	13.90	29.14	55.61	0.35
講義科目	0.30	1.39	14.51	35.00	48.61	0.20
全科目	0.20	1.02	15.78	31.77	50.98	0.25

授業内容に対して抱いた興味の種類

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.69	1.67	26.27	38.33	32.84	0.20
実習科目	0.12	1.45	18.44	39.09	40.61	0.29
講義科目	0.62	2.82	23.43	41.02	31.90	0.20
全科目	0.48	1.98	22.72	39.48	35.12	0.23

講義の編成や内容における一貫性、統合性の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	1.08	6.96	43.73	33.24	14.51	0.49
実習科目	0.06	1.11	24.72	43.46	30.31	0.35
講義科目	0.69	4.53	34.94	37.23	22.40	0.21
全科目	0.61	4.20	34.46	37.97	22.41	0.35

授業に対する配分時間の妥当性

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	3.73	12.06	41.96	26.27	15.10	0.88
実習科目	0.87	4.83	32.46	33.68	27.63	0.52
講義科目	1.99	7.42	41.60	29.01	19.08	0.90
全科目	2.19	8.10	38.67	29.66	20.60	0.77

＜平成 18 年度後学期 学部＞

A-1 出席率はどのくらいですか

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
文化教育学部	0.25	0.44	2.03	13.41	83.80	0.07
経済学部	1.03	1.19	4.72	13.29	79.74	0.03
理工学部	0.31	0.34	1.70	10.78	86.64	0.25
農学部	0.10	0.20	1.39	8.89	89.24	0.17
教養教育運営機構	0.19	0.49	2.49	14.64	82.08	0.11

A-2 予習を毎週の程度しましたか

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	64.77	24.58	5.46	1.79	2.91	0.49
経済学部	73.00	18.38	4.56	1.46	2.52	0.08
理工学部	56.70	31.07	5.64	1.80	3.47	1.32
農学部	63.01	26.09	5.06	1.90	3.66	0.27
教養教育運営機構	64.10	24.65	5.70	1.13	1.20	3.22

A-3 復習を毎週の程度しましたか

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	62.19	29.42	3.95	1.32	2.34	0.78
経済学部	68.36	25.11	3.13	1.14	1.80	0.45
理工学部	43.33	40.14	8.39	2.34	4.15	1.65
農学部	52.22	36.58	6.38	1.93	2.51	0.37
教養教育運営機構	64.79	27.42	2.99	0.66	0.71	3.43

A-4 この授業の学習目標を把握している

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	0.92	2.19	6.29	22.76	55.85	11.61	0.38
経済学部	1.83	4.85	10.82	31.32	41.98	9.02	0.19
理工学部	0.73	4.74	10.34	31.39	43.91	7.50	1.39
農学部	0.85	2.34	8.08	28.84	50.90	8.65	0.34
教養教育運営機構	0.98	4.27	9.69	31.76	45.44	7.50	0.37

A-5 この授業の成績評価基準を把握している

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	1.25	2.27	7.47	21.78	52.11	14.50	0.64
経済学部	1.49	4.35	9.49	27.92	42.22	14.11	0.42
理工学部	0.57	3.14	7.52	26.44	47.81	12.87	1.64
農学部	1.09	2.14	8.18	24.94	50.93	12.18	0.54
教養教育運営機構	0.74	3.25	8.09	25.79	48.83	12.72	0.57

B-1 この授業の内容は理解できる

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
文化教育学部	0.29	1.31	4.10	17.97	62.86	13.38	0.10
経済学部	0.74	3.02	8.62	29.81	49.27	8.41	0.13
理工学部	0.51	3.51	10.79	33.60	45.27	5.23	1.10
農学部	0.58	1.49	6.31	26.71	57.72	7.09	0.10
教養教育運営機構	0.40	2.41	7.26	25.31	55.14	9.36	0.12

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	0.36	1.60	5.78	21.15	50.86	20.00	0.25
経済学部	0.72	4.14	10.87	29.94	43.09	11.03	0.21
理工学部	0.54	5.13	12.44	36.62	35.92	8.07	1.29
農学部	0.64	1.59	6.07	24.36	53.07	14.12	0.14
教養教育運営機構	0.32	3.51	8.27	28.92	46.16	12.48	0.33

B-3 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	8.61	3.08	10.97	28.52	36.98	11.01	0.83
経済学部	4.00	4.53	14.08	33.25	34.95	8.80	0.37
理工学部	3.28	3.85	10.72	36.98	36.78	6.79	1.61
農学部	6.82	1.53	7.02	26.43	48.73	8.96	0.51
教養教育運営機構	5.75	3.03	9.17	32.84	37.60	8.15	3.46

B-4 教材(テキスト、配付資料、その他)はわかりやすかった

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	9.85	1.71	5.37	25.03	45.08	12.10	0.86
経済学部	5.41	3.39	8.22	31.95	40.89	9.63	0.50
理工学部	3.90	3.21	10.38	37.50	37.18	6.23	1.61
農学部	6.96	2.17	6.24	28.06	47.23	8.55	0.78
教養教育運営機構	7.16	2.43	7.24	32.10	40.01	7.74	3.33

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	40.96	4.30	7.22	28.81	13.97	3.73	1.00
経済学部	27.42	6.89	10.37	33.52	16.26	4.77	0.77
理工学部	15.70	6.82	12.72	38.70	21.05	3.40	1.61
農学部	30.34	4.24	8.48	36.24	17.54	2.65	0.51
教養教育運営機構	25.61	6.41	11.30	37.07	13.93	3.17	2.51

B-6 授業内容はシラバスに沿っている

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	46.88	0.89	2.05	25.04	19.70	4.84	0.61
経済学部	35.80	1.99	2.44	29.81	23.52	5.81	0.64
理工学部	22.39	1.82	3.44	33.79	31.51	5.43	1.63
農学部	36.00	0.58	1.49	33.56	24.50	3.22	0.64
教養教育運営機構	33.24	1.47	2.52	33.34	22.69	4.20	2.53

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	1.07	1.16	6.14	14.58	56.45	20.10	0.48
経済学部	0.98	1.72	4.48	17.82	56.40	18.09	0.50
理工学部	1.74	2.47	6.48	24.19	52.46	10.92	1.72
農学部	2.24	0.34	3.66	17.10	63.90	12.35	0.41
教養教育運営機構	0.50	1.80	5.10	18.36	55.97	17.68	0.59

B-8 話す速さは適切だった

	該当しない・ わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	1.66	0.12	1.92	83.25	10.28	1.86	0.92
経済学部	1.96	0.34	1.67	79.10	13.92	1.99	1.01
理工学部	2.94	0.29	1.79	79.38	11.85	1.91	1.83
農学部	2.88	0.10	0.71	82.76	11.37	1.39	0.78
教養教育運営機構	1.21	0.48	1.81	84.30	9.78	1.49	0.94

B-9 授業の進む速さは適切だった

	該当しない・ わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	2.95	0.26	3.08	79.87	10.66	1.98	1.21
経済学部	3.26	0.58	2.81	76.05	13.82	2.33	1.14
理工学部	3.70	0.32	2.16	72.82	15.96	2.99	2.05
農学部	3.73	0.07	1.49	75.81	15.44	2.34	1.12
教養教育運営機構	2.42	0.71	3.12	80.07	10.63	1.90	1.15

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	2.03	1.51	6.25	23.55	53.14	13.00	0.52
経済学部	2.68	2.33	7.24	29.22	47.52	10.29	0.72
理工学部	1.93	3.73	8.36	33.74	44.34	6.42	1.48
農学部	2.34	0.75	3.97	24.60	59.31	8.52	0.51
教養教育運営機構	1.98	2.29	6.09	28.70	51.21	8.90	0.82

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	6.74	0.93	3.01	20.12	50.60	17.82	0.78
経済学部	11.80	1.54	2.97	26.86	41.79	14.03	1.01
理工学部	4.94	2.59	4.00	30.68	46.55	9.60	1.65
農学部	4.92	0.37	2.51	20.97	57.07	13.30	0.85
教養教育運営機構	9.38	1.18	2.58	28.54	45.63	11.43	1.26

D-1 この授業を受講して満足が得られた

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
文化教育学部	0.71	1.63	5.42	20.21	48.17	18.74	5.13
経済学部	1.72	3.58	6.50	28.48	42.80	12.38	4.53
理工学部	1.09	4.50	9.17	34.25	37.54	7.78	5.66
農学部	0.78	1.22	4.85	23.55	52.22	11.88	5.50
教養教育運営機構	0.78	3.00	6.03	27.45	45.25	12.73	4.76

<平成18年度後学期 大学院>

A-1 出席率はどのくらいですか

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
教育学研究科	0.37	0.00	1.49	7.43	90.71	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	3.03	21.21	75.76	0.00
工学系研究科	0.12	0.12	1.25	11.61	86.89	0.00
農学研究科	1.23	0.00	0.00	8.59	89.57	0.61

A-2 予習を毎週どの程度しましたか

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
教育学研究科	13.75	29.74	24.54	14.50	17.10	0.37
経済学研究科	7.58	33.33	16.67	25.76	16.67	0.00
工学系研究科	42.82	39.20	8.99	4.24	4.62	0.12
農学研究科	30.67	38.04	11.66	6.75	11.66	1.23

A-3 復習を毎週どの程度しましたか

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
教育学研究科	18.22	31.97	26.02	11.90	11.52	0.37
経済学研究科	13.64	33.33	12.12	25.76	15.15	0.00
工学系研究科	43.20	45.32	6.74	2.75	1.62	0.37
農学研究科	42.33	36.81	7.98	5.52	6.13	1.23

A-4 この授業の学習目標を把握している

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.37	0.00	2.23	6.69	37.55	53.16	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	9.09	45.45	45.45	0.00
工学系研究科	0.87	2.62	4.74	23.97	54.56	13.11	0.12
農学研究科	0.00	1.84	5.52	12.88	44.17	33.74	1.84

A-5 この授業の成績評価基準を把握している

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.00	0.74	4.46	15.61	35.32	43.49	0.37
経済学研究科	0.00	0.00	1.52	7.58	45.45	43.94	1.52
工学系研究科	1.25	2.37	6.74	22.72	48.44	18.23	0.25
農学研究科	0.00	2.45	2.45	20.25	41.10	31.90	1.84

B-1 この授業の内容は理解できる

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.37	6.69	46.47	46.47	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	1.52	56.06	42.42	0.00
工学系研究科	0.37	1.37	5.37	23.85	58.43	10.24	0.37
農学研究科	1.23	1.84	1.84	11.66	59.51	21.47	2.45

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くそのとおりだと思う	なし
教育学研究科	0.37	0.00	0.74	4.09	34.94	59.85	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	1.52	6.06	36.36	56.06	0.00
工学系研究科	0.62	2.37	5.37	24.97	51.06	15.23	0.37
農学研究科	1.84	1.84	2.45	10.43	52.15	29.45	1.84

B-3 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
教育学研究科	24.54	0.74	1.86	13.75	27.14	30.48	1.49
経済学研究科	3.03	0.00	4.55	1.52	42.42	45.45	3.03
工学系研究科	6.12	2.00	5.24	28.59	43.82	13.86	0.37
農学研究科	5.52	0.61	1.23	15.34	48.47	27.61	1.23

B-4 教材(テキスト、配付資料、その他)はわかりやすかった

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
教育学研究科	8.92	0.00	1.49	10.04	35.69	42.75	1.12
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	7.58	36.36	53.03	3.03
工学系研究科	11.61	1.62	3.87	30.96	40.70	10.61	0.62
農学研究科	7.36	2.45	1.23	14.11	53.37	20.25	1.23

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
教育学研究科	23.42	0.37	2.23	17.47	27.88	27.51	1.12
経済学研究科	13.64	0.00	1.52	7.58	34.85	40.91	1.52
工学系研究科	27.84	4.37	8.36	31.96	20.35	6.74	0.37
農学研究科	29.45	4.91	4.29	26.38	21.47	12.27	1.23

B-6 授業内容はシラバスに沿っている

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
教育学研究科	22.68	0.00	1.12	14.13	31.23	29.37	1.49
経済学研究科	13.64	0.00	0.00	7.58	33.33	42.42	3.03
工学系研究科	29.96	1.50	2.12	26.47	29.59	9.61	0.75
農学研究科	31.90	1.23	1.84	19.63	28.22	15.95	1.23

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
教育学研究科	1.49	0.37	0.00	3.35	36.06	57.25	1.49
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	4.55	34.85	59.09	1.52
工学系研究科	1.87	0.62	1.87	13.98	56.30	24.47	0.87
農学研究科	6.13	1.84	2.45	10.43	49.69	27.61	1.84

B-8 話す速さは適切だった

	該当しない・ わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.00	87.73	6.69	5.20	0.37
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	89.39	6.06	3.03	1.52
工学系研究科	2.12	0.00	1.37	84.52	9.36	1.75	0.87
農学研究科	7.36	0.61	0.00	79.75	6.13	4.91	1.23

B-9 授業の進む速さは適切だった

	該当しない・ わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	2.97	0.00	1.49	81.78	7.43	5.95	0.37
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	89.39	4.55	3.03	3.03
工学系研究科	2.25	0.37	3.12	79.90	11.74	1.75	0.87
農学研究科	7.98	0.61	1.23	79.14	3.07	6.75	1.23

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
教育学研究科	1.86	0.74	1.86	7.06	32.71	54.65	1.12
経済学研究科	0.00	0.00	1.52	4.55	51.52	39.39	3.03
工学系研究科	2.50	2.25	2.87	24.72	53.93	13.11	0.62
農学研究科	5.52	2.45	3.07	14.11	50.92	20.86	3.07

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.37	0.74	3.35	30.48	63.94	1.12
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	3.03	45.45	48.48	3.03
工学系研究科	6.99	0.62	0.75	19.60	53.68	17.60	0.75
農学研究科	3.68	1.84	0.61	15.95	49.69	24.54	3.68

D-1 この授業を受講して満足が得られた

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くそのとお りだと思う	なし
教育学研究科	1.12	0.37	0.74	2.97	34.20	56.88	3.72
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	4.55	42.42	43.94	9.09
工学系研究科	0.50	1.75	3.12	23.85	51.31	15.73	3.75
農学研究科	0.00	1.84	4.91	8.59	50.31	28.22	6.13

資 料2 授業評価結果を用いた授業改善実施要領

(趣旨)

第1条 佐賀大学学生による授業評価実施要領（以下「授業評価実施要領」という。）第2条に定める個別授業評価及び組織別授業評価の結果は、授業評価実施要領に定めるもののほか、この要領の定めるところにより、授業の改善を通じて教育の質の向上に利用するものとする。

(報告書作成)

第2条 授業を担当する教員（非常勤講師を含む。）は、授業科目毎に実施する授業評価の結果及び授業の改善目標を個別授業点検・評価報告書に記載し、学部又は学科等（以下「教育組織」という。）に提出する。

2 教育組織は、個別授業評価及び組織別授業評価の結果に基づき、次の各号に掲げる事項を組織別授業点検・評価報告書に記載し、学部又は学科等の長に提出する。

(1) 各種アンケートの学科等別及び科目別の集計

(2) 各種アンケートの結果から総合的に判断して、学生から高い評価を得ていると教育組織が認定する授業科目

(3) 個別授業評価に係る情報が一切ない授業科目

(4) 学部又は学科等の授業改善の取組状況に係る優れた点及び改善を要する点

(5) 次年度の学部又は学科等の授業改善目標

(報告書の利用)

第3条 学部又は学科等の長は、前項に定める組織別授業点検・評価報告書に基づき、必要に応じて教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策を講じるものとする。

2 前条第1項の個別授業点検・評価報告書及び同条第2項の組織別授業点検・評価報告書は、教育組織が実施する研修会等に利用し、オンラインで公表する。

3 前条第2項第2号に該当する授業科目における取組みは、授業の改善に広く資するよう、教育組織が実施する研修会等又は公開授業により周知する。

附 則

1 この要領は、平成18年12月22日から実施する。

2 この要領は、当分の間、医学部及び医学系研究科において実施される授業評価には適用しない。

資 料3 佐賀大学学生による授業評価実施要領

(趣旨)

第1条 授業改善を目的とする学生による授業評価（以下「授業評価」という。）の実施に関する事項は、この要領に定めるところによる。

(評価の実施)

第2条 授業を担当する教員（非常勤講師を含む。）は、授業科目毎に授業評価（以下「個別授業評価」という。）を実施する。

2 学部及び学科等の教育組織（以下「教育組織」という。）は、前項の個別授業評価等を分析し、教育組織毎に授業評価（以下「組織別授業評価」という。）を実施する。

(評価の支援)

第3条 大学は、授業評価の実施に必要な全学共通のアンケート用紙（以下「共通アンケート用紙」という。）を提供し、集計を行うなどの方法により、前条の授業評価の実施を支援する。

(個別評価結果の利用)

第4条 個別授業評価の結果は、授業担当者に提供し、授業担当者は、個別授業評価の結果を授業の改善等に利用するものとする。

2 前項の規定は、各授業担当者による評価結果の公表又は提供及び組織別授業評価のための集計を妨げるものではない。

3 個別授業評価の結果は、教員個人の評価には用いない。

4 個別授業評価の結果は、学生個人の成績評価に利用してはならない。

(組織別評価結果の利用)

第5条 教育改善のための調査研究を行う組織は、大学教育委員会の了承を得て、授業評価の結果を利用することができる。

(調査方法)

第6条 大学教育委員会は、個別授業評価のための共通アンケート用紙の様式その他の調査方法等について定める。

2 前項の規定は、教員又は教育組織が調査項目等を追加することを妨げるものではない。

(調査対象)

第7条 個別授業評価の対象となる授業科目は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 学部が開設する授業科目

(2) 教養教育運営機構が開設する授業科目

(3) 研究科が開設する授業科目

2 授業科目を開設する学部等（教養教育運営機構及び研究科を含む。）の長が、授業科目の特性により、共通アンケート用紙を用いて調査することが適切でないと判断した場合は、他の方法により調査することができるものとする。

3 第1項の各号に列記された授業科目以外の講習会等の評価については、実施組織の判断により、共通アンケート用紙を利用することができる。

(実施方法)

第8条 個別授業評価の実施，集計及び集計結果の公表の方法については，大学教育委員会 の議を経て，委員長が別に定める。

2 前項の規定は，教員又は教育組織が，独自の調査を実施することを妨げるものではない。

(雑則)

第9条 この要領に定めるものの他，授業評価の実施に関して必要な事項は，大学教育委員会 の議を経て，委員長が定める。

附 則

1 この要領は，平成18年10月1日から実施する

2 この要領は，当分の間，医学部・医学系研究科には適用しない。

資料4 学生による授業評価アンケート様式

＜平成 18 年度前学期実施のアンケート＞

学生による授業評価アンケート

（佐賀大学）

このアンケートは、授業の改善に役立てる事を目的として行うものです。回答は無記名で、またその内容は成績評価に用いることは一切ありませんので、どのように回答してもあなたにとって不利になることはありません。皆さんの意見は、今後の授業に生かされますので、率直・誠実に答え下さい。

〈記入上の注意〉

- ① この用紙は折り曲げたり、汚したりしないこと。
- ② 記入及びマークの方法
 - ・HB程度のエンピツを使用すること。
 - ・枠をはみ出さないように記入、又はマークすること。
 - ・マークしなおす場合は、誤った方をきれいに消すこと。

正しい例…… ① ② ③ ……

悪い例…… ~~①~~ ② ③ …… , ~~①~~ ② ③ …… など

授業科目コード							
入学年度（西暦年を記入して下さい。）							
学部学科・課程コード			選修・コース・系等コード				

学部学科・課程コード及び選修・コース・系等コードは、裏面を参照して下さい。

この科目の授業（講義）についての以下の記述にあなたはどのように考えますか。該当するものを1つ選んで番号をマークして下さい。なお、各項目の評価に関して具体的な理由や意見があれば、裏に記入して下さい。

A あなた自身について

- A1. 出席率はどうのくらいですか。
- A2. 予習・復習を毎週どの程度しましたか。
- A3. この科目に意欲的に取り組んだ。
- A4. この授業を正當に評価できると思う。

A 1	20%未満	20～40%	40～60%	60～80%	80%以上
	①	②	③	④	⑤
A 2	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上
	①	②	③	④	⑤
A 3	該当しない、又はわからない。	全くそうは思わない。	そうは思わない。	どちらともいえない。	そう思う。
	①	②	③	④	⑤
A 4	①	②	③	④	⑤

B 授業内容

- B1. この授業はよくまとまっていた。
- B2. 授業内容はシラバスに沿っていた。
- B3. この科目を受講後、この科目に対する興味は増加した。
- B4. この科目を受講した価値があった。
- B5. 授業内容は理解できた。

B 1	①	②	③	④	⑤
B 2	①	②	③	④	⑤
B 3	①	②	③	④	⑤
B 4	①	②	③	④	⑤
B 5	①	②	③	④	⑤

C 授業方法

- C1. 講義を分かりやすくする工夫が感じられた。
- C2. 黒板、OHP等の使い方が効果的だった。
- C3. 教科書（テキスト、配布資料を含む）は役に立った。
- C4. シラバスは学習する上で役に立った。
- C5. 声の大きさ・明瞭さは適切だった。
- C6. 話す速さは適切だった。
- C7. 授業の進む速さは適切だった。

C 1	①	②	③	④	⑤
C 2	①	②	③	④	⑤
C 3	①	②	③	④	⑤
C 4	①	②	③	④	⑤
C 5	分からない	聞き取りにくい	ちょうどよい	明瞭	
	①	②	③	④	
C 6	分からない	遅い	ちょうどよい	速い	
	①	②	③	④	
C 7	①	②	③	④	⑤

D 教官の対応

- D1. 学生の質問に明確な回答を与えてくれた。
- D2. 公平に学生に対応していた。
- D3. 教官は学生とのコミュニケーションをはかるように努めた。

	該当しない、又はわからない。	全くそうは思わない。	そうは思わない。	どちらともいえない。	そう思う。	全くそのとおりだと思う。
D 1	①	②	③	④	⑤	
D 2	①	②	③	④	⑤	
D 3	①	②	③	④	⑤	

E この部分は教官がいくつかの質問項目を指定します。教官の指示に従って記入して下さい。

- E1.
- E2.
- E3.
- E4.
- E5.

E 1	①	②	③	④	⑤
E 2	①	②	③	④	⑤
E 3	①	②	③	④	⑤
E 4	①	②	③	④	⑤
E 5	①	②	③	④	⑤

記入例

1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

裏面に続く

学部学科・ 課程コード	学部名称	学科等名称	学部学科・ 課程コード	学部名称	学科等名称	学部学科・ 課程コード
	学部名称	学科等名称	学部学科・ 課程コード	学部名称	学科等名称	学部学科・ 課程コード
学部学科・ 課程コード	文化教育学部	学校教育課程	10	理工学部	機械システム工学科	57
		国際文化課程	11		電気電子工学科	58
		人間環境課程	12		都市工学科	59
	経済学部	美術・工芸課程	13	農学部 (’05以前入学者)	生物生産学科	70
		経済システム課程	35		応用生物科学科	71
		経営・法律課程	36		応用生物科学科	72
	医学部	医学科	41	農学部 (’06以降入学者)	生物環境学科	73
		看護学科	42		生命機能科学科	74
		数理科学科	53	その他学部生	上記に属さない学部生	80
	理工学部	物理科学科	54	大学院	全ての大学院生	90
		知能情報システム学科	55	その他	科目等履修生等	91
		機能物質化学科	56			
選修・コース・系等 コード	学部・学科等名称	選修・コース・系等名称	選修・系・コース等コード	学部・学科等名称	選修・コース・系等名称	選修・系・コース等コード
	学部・学科等名称	選修・コース・系等名称	選修・系・コース等コード	学部・学科等名称	選修・コース・系等名称	選修・系・コース等コード
選修・コース・系等 コード	文化教育学部 学校教育課程	教育学選修	1	経済学部	国際経済社会コース	31
		教育心理学選修	2	経済システム課程	総合政策コース	32
		障害児教育選修	3	経済学部	企業経営コース	33
		数学選修	4	経営・法律課程	法務管理コース	34
		理科選修	5	理工学部	物質化学コース	51
		音楽選修	6	機能物質化学科	機能材料化学コース	52
		教科教育選修	7	農学部	生産科学系	71
	文化教育学部	日本・アジア文化選修	11	生物生産学科	環境情報工学系	72
	国際文化課程	欧米文化選修	12	農学部	応用生物学系	73
	文化教育学部	生活・環境・技術選修	21	応用生物科学科	生物化学系	74
	人間環境課程	健康福祉・スポーツ選修	22	その他学部学生	上記に属さない学部生	99
	文化教育学部 美術・工芸課程	美術工芸選修	23			

各項目の評価についての具体的な理由や意見及びその他気づいたことがあれば、下記に記入して下さい。

A：あなた自身について
B：授業内容について
C：授業方法について
D：教官の対応について
その他、この授業について気づいたことがあれば、何でもお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

<平成 18 年度後学期実施のアンケート>

学生による授業評価アンケート

〈佐賀大学〉

このアンケートは、授業の改善に役立てる事を目的として実施するものです。回答は無記名で行い、その内容を成績評価に用いることは一切ありません。また、授業に当てはまらない質問は「該当しない」と回答し、どうしても回答しにくい質問については記入する必要はありません。皆さんのご意見は、今後の授業に生かされますので、率直にお答え下さい。

授業科目コード							
入学年度（西暦年を記入して下さい。）							
学部学科・課程・研究科・専攻等コード			選修・コース・系等コード				
学部学科・課程・研究科・専攻等コード及び選修・コース・系等コードは、裏面を参照して下さい。							
記入例 1234567890							

〈記入上の注意〉

- ① この用紙は折り曲げたり、汚したりしないこと。
- ② 記入の方法及びマークの方法
 - ・HB程度のエンピツ、シャープペンシル等を使用すること。
 - ・枠をはみ出さないように記入すること。
 - ・記入しなおす場合は、誤った方をきれいに消すこと。

正しい例…… ☐ ① ☒ ② ☐ ③

悪い例…… ☐ ① ☒ ② ☐ ③, ☐ ① ☒ ② ☐ ③

この授業科目をあなたはどうか考えますか。以下の各項目それぞれについて、該当する番号を1つ選んでマークして下さい。

A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか。

	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上
A-1	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤
A-2	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤
A-3	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤

A-2 予習を毎週の程度していますか。

A-3 復習を毎週の程度していますか。

A-4 この授業の学習目標を把握している。

A-5 この授業の成績評価基準を把握している。

	説明がなかった。	全く把握していない。	把握していない。	どちらともいえない。	少しは把握している。	完全に把握している。
A-4	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
A-5	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥

B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる。

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

B-3 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

B-4 教材（テキスト、配布資料、その他）はわかりやすかった。

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている。

B-6 授業内容はシラバスに沿っている。

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった。

	該当しない わからない。	全くそうは 思わない。	そうは思わ ない。	どちらとも いえない。	そう思う。	全くそのと おりだと思 う。
B-1	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
B-2	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
B-3	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
B-4	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
B-5	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
B-6	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
B-7	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
B-8	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
B-9	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥

B-8 話す速さは適切だった。

B-9 授業の進む速さは適切だった。

C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている。

	該当しない わからない。	全くそうは 思わない。	そうは思わ ない。	どちらとも いえない。	そう思う。	全くそのと おりだと思 う。
C-1	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
C-2	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥

D. 満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない わからない。	全くそうは 思わない。	そうは思わ ない。	どちらとも いえない。	そう思う。	全くそのと おりだと思 う。
D-1	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥

E. 指定項目①（この部分は教員の指示に従って記入して下さい。）

E-1

E-2

E-3

E-4

E-5

	該当しない わからない。	全くそうは 思わない。	そうは思わ ない。	どちらとも いえない。	そう思う。	全くそのと おりだと思 う。
E-1	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
E-2	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
E-3	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
E-4	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥
E-5	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤	☐ ⑥

F. 指定項目②（この部分は教員の指示に従って記入して下さい。）

F-1

F-2

F-3

F-4

F-5

	①	②	③	④	⑤
F-1	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤
F-2	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤
F-3	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤
F-4	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤
F-5	☐ ①	☐ ②	☐ ③	☐ ④	☐ ⑤

この授業科目について気づいたことがあれば、何でもお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

学 部 学 科 ・ 課 程 コ ー ド	学 部 名 称	学 科 等 名 称	学 部 学 科 ・ 課 程 コ ー ド	学 部 名 称	学 科 等 名 称	学 部 学 科 ・ 課 程 コ ー ド
	文化教育学部	学校教育課程	10	理工学部	機械システム工学科	57
		国際文化課程	11		電気電子工学科	58
		人間環境課程	12		都市工学科	59
		美術・工芸課程	13	農学部 ('05以前入学者)	生物生産学科	70
	経済学部	経済システム課程	35		応用生物科学科	71
		経営・法律課程	36	農学部 ('06以降入学者)	応用生物科学科	72
	医学部	医学科	41		生物環境科学科	73
		看護学科	42		生命機能科学科	74
	理工学部	数理科学科	53	その他学部生	上記に属さない学部生	80
		物理科学科	54	その他	科目等履修生等	91
		知能情報システム学科	55			
		機能物質化学科	56			

選 修 ・ コ ー ス ・ 系 等 コ ー ド	学 部 ・ 学 科 名 称	選 修 ・ コ ー ス ・ 系 等 名 称	選 修 ・ コ ー ス ・ 系 等 コ ー ド	学 部 ・ 学 科 名 称	選 修 ・ コ ー ス ・ 系 等 名 称	選 修 ・ コ ー ス ・ 系 等 コ ー ド
	文化教育学部 学校教育課程	教育学選修	1	経済学部 経営・法律課程	企業経営コース	33
		教育心理学選修	2		法務管理コース	34
		障害児教育選修	3	理工学部 機能物質化学科	物質化学コース	51
		数学選修	4		機能材料化学コース	52
		理科選修	5	理工学部 都市工学科 ('06以降入学者)	都市環境基盤コース	53
		音楽選修	6		建築・都市デザインコース	54
		教科教育選修	7	農学部 生物生産学科 ('05以前入学者)	生産科学系	71
	文化教育学部 国際文化課程	日本・アジア文化選修	11		環境情報工学系	72
	文化教育学部 人間環境課程	欧米文化選修	12	農学部 応用生産科学科 ('05以前入学者)	応用生物学系	73
		生活・環境・技術選修	21		生物化学系	74
	文化教育学部 美術・工芸課程	健康福祉・スポーツ選修	22	農学部 生物環境科学科 ('06以降入学者)	生物環境保全学コース	75
		美術・工芸選修	23		資源循環生産学コース	76
	経済学部 経済システム課程	国際経済社会コース	31		地域社会開発学コース	77
		総合政策コース	32	その他学部生	上記に属さない学部生	99

研 究 科 ・ 専 攻 等 コ ー ド	研 究 科 名 称	専 攻 等 名 称	研 究 科 ・ 専 攻 等 コ ー ド	研 究 科 名 称	専 攻 等 名 称	研 究 科 ・ 専 攻 等 コ ー ド
	教育学研究科	学校教育専攻	15	工学系研究科(博 士前期課程)	機能物質化学専攻	60
		教科教育専攻	16		物理科学専攻	61
	経済学研究科	金融・経済政策専攻	37		機械システム工学専攻	62
		企業経営専攻	38		電気電子工学専攻	63
	医学系研究科 (修士課程)	医科学専攻	43		知能情報システム学専攻	64
		看護学専攻	44		数理科学専攻	65
	医学系研究科 (博士課程)	機能形態系専攻	45		都市工学専攻	66
		生体制御系専攻	46		循環物質工学専攻	67
		生態系専攻	47		生体機能システム制御工 学専攻	68
	農学研究科	生物生産学専攻	75	工学系研究科(博 士後期課程)	エネルギー物質科学専攻	95
		応用生物科学専攻	76		システム生産科学専攻	96
	連合農学研究科		77		生体機能システム制御工 学専攻	97

学生による授業評価アンケートⅢ（PBL授業科目）

※5桁の場合は左づめで記入すること
8桁の場合は初めの0を省略

実施年月日：平成 年 月 日

氏 名	
-----	--

授 業 科目名	
------------	--

〔 注 意 事 項 〕

- (1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
- (2) 記入にはHBの黒鉛筆を使用して下さい。
- (3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
- (4) < > の枠をはみ出さないようにぬりつぶして下さい。

良い例 ☒ 悪い例 ☐ ☐ ☐ ☒ ☐

※ 学 籍 番 号									
<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>
<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>
<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>
<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>
<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>
<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>
<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>
<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>
<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>
<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>

1. この授業に関して、あなた自身を5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高 い	やや 高 い	中 間	やや 低 い	低 い
1) 講義に対する出席の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
2) 復習や関連事項の自己学習の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
3) 授業内容の修得、理解度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>

2-1. この授業科目全般の内容について5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で評価した数値をマークして下さい。	高 い	やや 高 い	中 間	やや 低 い	低 い
1) この授業に対する総合的満足度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
2) あなたが感じたこの教科目の重要性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
3) 授業内容に対して抱いた興味の種類	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
4) 講義の編成や内容における統一性、統合性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
5) シナリオに対する興味の種類	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
6) この授業に対する配分時間の妥当性	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>

2-2. 上記の評価に関連して、以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可）、その記号をマークして下さい。		
<A> 講義の内容がばらばらである	 講義内容に重複がある	<C> 講義内容が少なすぎる
<D> 講義分担教官が多すぎる	<E> シラバスが統一されていない	<F> シナリオが複雑すぎる
<G> シナリオが単純すぎる	<H> もっと授業時間を増やして欲しい	<I> もっと実習時間を増やして欲しい
<J> 現行より早い時期に開講して欲しい	<K> もっと遅い時期に開講して欲しい	

2-3. この授業科目について、上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。
.....
.....

2-4. この授業科目について、よかったと思うことを書いて下さい。
.....
.....

※このアンケートと成績は関係ありません。

学生による授業評価アンケートⅡ（実習科目）

※5桁の場合は左づめで記入すること
8桁の場合は初めの0を省略

実施年月日：平成 年 月 日

氏 名	
授 業 科 目 名	

〔注意事項〕

- (1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
- (2) 記入にはHBの黒鉛筆を使用して下さい。
- (3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
- (4) 〆の枠をはみ出さないようにめりつぶして下さい。

良い例 悪い例

[illegible]

1. この実習に関して、あなた自身を5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高 い	やや 高い	中 間	やや 低い	低 い
1) 実習に対する出席の程度	＜5＞	＜4＞	＜3＞	＜2＞	＜1＞
2) 復習や関連事項の自己学習の程度	＜5＞	＜4＞	＜3＞	＜2＞	＜1＞
3) 実習内容の修得 理解度	5	＜4＞	＜3＞	＜2＞	＜1＞

2-1. この実習全般の内容について5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で評価した数値をマークして下さい。	高 い	やや 高い	中 間	やや 低い	低 い
1) この実習に対する総合的満足度	＜5＞	＜4＞	＜3＞	＜2＞	＜1＞
2) あなたが感じたこの実習の重要性の程度	＜5＞	＜4＞	＜3＞	＜2＞	＜1＞
3) 実習内容に対して抱いた興味の種類	＜5＞	＜4＞	＜3＞	＜2＞	＜1＞
4) 実習の編成や内容における一貫性、統合性の程度	＜5＞	＜4＞	＜3＞	＜2＞	＜1＞
5) 実習の工夫、実習書や配布資料の活用・有効性の程度	＜5＞	＜4＞	＜3＞	＜2＞	＜1＞
6) この実習に対する配分時間の妥当性	＜5＞	＜4＞	＜3＞	＜2＞	＜1＞
7) 実習環境の充実性	＜5＞	＜4＞	＜3＞	＜2＞	＜1＞

2-2. 上記の評価に関連して、以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可）、その記号をマークして下さい。

◁A＞ 学習要項（シラバス）と実習の内容が一致していない	◁B＞ 実習内容が多すぎる	◁C＞ 実習時間が多すぎる
◁D＞ もっと実習時間を増やして欲しい	◁E＞ 現行より早い時期に開講して欲しい	◁F＞ もっと遅い時期に開講して欲しい
◁G＞ もっと指導教官を増やして欲しい	◁H＞ 実習書が分かりにくい	◁I＞ 機材が不足している
◁J＞ グループの人数が多すぎる		

2-3. この実習について、上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。

2-4. この実習について、よかったと思うことを書いて下さい。

<理工学部の独自形式によるアンケート>

物理科学科

物理学実験B

(3つの異なるテーマの全てについてアンケートを実施。1人の学生は3度回答。)

- [1] この科目を受講後、この科目に対する興味は増加したか。
- [2] この科目を受講した価値があったか。
- [3] 内容は理解できたか。
- [4] 難易度はどうだったか。
- [5] TAは有効に機能していたか。
- [6] その他、実験に対する要望、改善点、提案など(自由記載)

TA 利用科目全て

共通アンケート自由設定項目に

E-1. この授業でTAの補助は役に立ちましたか？

E-2. この授業にTAは必要だと思いますか？

E-3. TAは教えるための準備が充分できていましたか？

を追加。

大学入門科目Ⅱ

1年生後期 小人数でのゼミや実験を行い、各担当教員が独自アンケートを実施。

A1. 取り上げた主題(線形代数、力学)について

- 1. 適当だった
- 2. よくわからない
- 3. 他の内容が良かった

A2. 上で3.と答えた人で、具体的な要望があれば書いてください。

B. 内容の難易度について

- 1. 易しかった
- 2. 丁度良かった
- 3. 難しかった

C. 総合的な満足度はを5段階で教えてください。

不満 1 2 3 4 5 満足

D. 今回の入門科目Ⅱについて意見・要望があれば書いてください。

E. 物理科学科のカリキュラムについて意見・要望があれば書いてください。

機能物質化学科

卒業研究

自由設定項目に以下を追加：

- A-1 卒業研究（特別研究）の出席率はどれくらいですか
- E-1 卒業研究（特別研究）のテーマは興味あるものだった
- E-2 卒業研究（特別研究）を進めていくうちに、その分野への興味が増してきた
- E-3 卒業研究（特別研究）で生じた疑問点を自ら調査した
- E-4 卒業研究（特別研究）を行う上で必要な文献調査の方法を習得した
- E-5 担当教員は、卒業研究（特別研究）で生じた疑問点について快く議論した
- F-1 卒業研究（特別研究）の内容を理解する上で、文献セミナー（雑誌会等）は役に立った
- F-2 卒業研究（特別研究）の進行状況を報告する研究室セミナー（検討会等）は有効であった
- F-3 卒業研究（特別研究）を遂行する上で、設備は十分なものがあつた
- F-4 卒業研究（特別研究）を遂行する上で、消耗品（試薬、ガラス器具等）は十分なものがあつた
- F-5 卒業研究（特別研究）を遂行する上で、十分なスペースが確保されていた

資料6 教員、授業科目別アンケート集計様式(レーダーチャート)

教員、授業科目別アンケート レーダーチャート表

学生による授業評価アンケート

大学教育委員会委員長

教員氏名
授業科目
科目の属する学部

実施日 平成19年 月 日

曜日

校時 対象学生数

／

